

LV 5800A / LV 5800

マルチモニター

取扱説明書



目次

制口た安全に一体田いただ!	<i>たかに</i>	I
我田で女王にに使用いたたい/	/この//こ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	

1.	はじる	めに	1
1.	1 保訂	下節用	1
1.	2 使用		1
	1. 2. 1	- 入力端子の最大許容電圧について	1
	1. 2. 2	スタンバイ時の注意	1
	1. 2. 3	ラストメモリーについて	2
	1. 2. 4	衝撃について	2
	1. 2. 5	液晶表示器について	2
	1. 2. 6	液晶表示のちらつきについて	2
	1. 2. 7	キャビネットについて	2
1.	3 廃棄	毛について	3
2.	本取	扱説明書について	4
3.	製品	仕様	5
3	1 概要		5
3.	· 派9 2 特長		5
3.	- 1912 3 規格	<u>ዳ</u>	6
	3. 3. 1		6
	3. 3. 2	液晶表示器	6
	3. 3. 3	画面キャプチャ	6
	3. 3. 4	プリセット	6
	3. 3. 5	外部基準入力	6
	3. 3. 6	外部制御端子	7
	3. 3. 7	ヘッドホン出力	7
	3. 3. 8	一般仕様	7
4	么部(の名称	8
· ·			
4.	1 前面	国パネル	8
	4.1.1		8
	4.1.2		9
	4.1.3	$MUDE \ \mathcal{O} \ \mathcal{V} - \mathcal{I} \ \mathcal{O} \ I$	1
	4.1.4 1 1 5	PRESEI シルーフ	ן י
Л	4.I.ರ ೧ ಸಲಸ	ての吧	۲ ۲
4.	∠ 月進 //)1	μハハル	с С
	4.2.1 1.2.2	LV 589FR014 (SDI INPUT) 背面パネル.	5 5
	ч . ∠. ∠ Л Э २	LV 58SER02(EVE PATTERN unit) 背面パネル. 1	5
	T. L. U		J

	4.2.4 LV 58SER40A(DIGITAL AUDIO)背面パネル	15
	4.2.5 LV 58SER20(DVI-I OUTPUT unit)背面パネル	16
	4.3 表示画面	16
F	タューットの宇社	10
IJ.	谷ユニットの美表	10
	5.1 ユニットの取り外し	18
	5.2 ユニットの実装	19
	5.2.1 LV 58SER01A(SDI INPUT)の実装	21
	5.2.2 LV 58SER02(EYE PATTERN unit)の実装	21
	5.2.3 LV 58SERO3A(TRI SYNC/COMPOSITE)の実装	25
	5.2.4 LV 58SER04(MPEG DECODER)の実装	25
	5.2.5 LV 58SER06(3G-SDI INPUT)の実装	25
	5.2.6 LV 58SER07(EYE PATTERN)の実装	26
	5.2.7 LV 58SER20(DVI OUTPUT unit)の実装	26
	5.2.8 LV 58SER21(ANALOG COMPONENT OUTPUT)の実装	26
	5.2.9 LV 58SER40A(DIGITAL AUDIO)の実装	26
	5.3 通風口について	28
c	堤ケチョックを	00
0.	保作于順の做安	29
	6.1 ユニットの種類による動作の違い	29
	6.1.1 入力ユニット	29
	6.1.2 出力ユニット	29
	6.1.3 機能ユニット	29
	6.1.4 複合ユニット	29
	6.2 パネル操作の基本	30
	6.2.1 表示エリアの選択	30
	6.2.2 表示形態の選択	31
	6.2.3 入力信号の選択	32
	6.2.4 表示モードの選択	32
	6.3 タブメニューの操作	32
	6.4 ビデオ信号波形表示	33
	6.5 ベクトル波形表示	34
	6.6 ピクチャー表示	34
	6.7 オーディオ表示	34
	6.7.1 エンベデッドオーディオの表示	35
	6.7.2 外部オーディオの表示	35
	6.8 ステータス表示	36
	6.8.1 SDI 信号のステータス表示	36
	6.8.2 オーディオのステータス表示	36
	6.9 アイパターン表示	37
	6.9.1 LV 58SER02 のアイパターン表示	37
	6.9.2 LV 58SER07のアイパターン表示	
	6.10 メニューの構成	
	6.10.1 キャプチャメニュー.	
	6. 10. 2 システムメニュー	

6.10.3 プリセットメニュー	41
7. システム設定	42
7.1 ユニットのシステム設定	43
7.2 本体のシステム設定	43
7.2.1 本体の一般的な設定	43
7.2.2 イーサーネットの設定	47
7.2.3 リモート端子の設定	50
7.2.4 日付と時間の設定	56
7.2.5 実装ユニットの表示	58
7.2.6 LCD バックライトの消灯	58
7.2.7 初期化	59
8. キャプチャ機能	60
8.1 スクリーンキャプチャ	61
8.1.1 スクリーンキャプチャ手順	61
8.1.2 スクリーンキャプチャファイルの選択	62
8.1.3 スクリーンキャプチャファイルの保存	63
8.1.4 スクリーンキャプチャファイルの読み出し	63
8.1.5 スクリーンキャプチャファイルの削除	64
8.2 フレームキャプチャ	64
9. プリセット機能	65
9.1 プリヤットの登録とファイル操作	
9.1.1 コメントの入力	
9.1.2 プリセットの登録	67
9.1.3 プリセットの削除	67
9.1.4 プリセットデータの一括コピー	68
9.2 プリセットの呼び出し	68
10. 電源コードについて	69
	~~
IU.I 電源コートを按続りるとさ	69
Ⅳ. 2 电源コートを取り外りとさ	70
11. 校正と修理について	71
12. ファームウエアの変更履歴	72

索引

■ ご使用になる前に

本製品は、電気的知識(工業高校の電気・電子系の学校卒業程度以上)を有する方が、本取扱説明書の内容をご理解いただいた上で使用する計測器です。

一般家庭・消費者向けに設計、製造された製品ではありません。 電気的知識のない方が使用する場合には、人身事故および製品に損害を生じる恐れがありますので、 必ず電気的知識を有する方の監督の下でご使用ください。

■ 取扱説明書をご覧になる際の注意

本取扱説明書で説明されている内容は、一部に専門用語も使用されていますので、もし、ご理解できない場合は、ご遠慮なく本社またはお近くの営業所までお問い合わせください。

■ 絵表示および文字表示について

本取扱説明書および製品には、製品を安全に使用する上での、必要な警告および注意事項を示す、 下記の絵表示と文字表示が使用されています。

〈絵表示〉	本取扱説明書および製品にこの絵表示が表記されている箇所は、その部分で誤 った使い方をすると、使用者の身体、及び製品に重大な危険を生じる可能性が あるか、または製品、および他の接続機器が意図しない動作となり、運用に支 障をきたす可能性があることを表します。 この絵表示部分を使用する際には、必ず本取扱説明書の記載事項を参照してく ださい。
〈文字表示〉 へへ 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、使用者が死亡または重傷を負う可 能性があり、その危険を避けるための警告事項が記載されていることを表しま す。
〈文字表示〉 注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、使用者が軽度の傷害を負うかまた は製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避けるための注意事項が記載さ れていることを表します。

下記に示す使用上の警告・注意事項は、使用者の身体・生命に対する危険および製品の損傷・劣化など を避けるためのものです。必ず下記の警告・注意事項を守ってご使用ください。



■ 製品のケースおよびパネルに関する警告事項

製品のケースおよびパネルは、ユニットの交換時以外は絶対に外さないでください。 ユニットの交換時においては、必ず電源コードをコンセントから外して行って下さい。 電源コードをコンセントに差したまま、内部に手を触れると、感電および火災の危険があります。

また、内部に液体をこぼしたり、燃えやすいものや金属片などを入れたりしないでください。 そのまま通電すると、火災、感電、故障、事故などの原因となります。

■ 電源に関する警告事項

製品に表示された定格電源電圧以外では使用しないでください。火災の危険があります。 AC 電源コードを商用電源に接続する前に、その電圧を確認してください。 本器の電源電圧と使用電圧範囲は、背面に表示してあります。 電源周波数は、必ず 50/60Hz でご使用ください。

電源電圧に応じた電源コードをご使用ください。また、ご使用になる国の安全規格に適合した 電源コードをご使用ください。適合した電源コード以外のものを使用すると、火災の危険があ ります。

付属の電源コードが損傷した場合は使用を中止し、本社またはお近くの営業所までご連絡くだ さい。電源コードが損傷したままご使用になると、感電および火災の危険があります。また、 電源コードを抜くときは、コードを引っ張らずに、必ずプラグを持って抜いてください。

■ 設置環境に関する警告事項

●動作温度範囲について

製品は、0~40℃の温度範囲内でご使用ください。製品の通風口をふさいだ状態や、周辺の 温度が高い状態で使用すると、火災の危険があります。

また、温度差のある部屋への移動など急激な温度変化で、製品内部が結露し、製品破損の原因となる場合があります。結露の恐れのある場合には、電源を入れずに 30 分程度放置してください。

●動作湿度範囲について

製品は、85%RH以下の湿度範囲内でご使用ください。(ただし、結露のないこと) また、濡れた手で操作しないでください。感電および火災の危険があります。

●ガス中での使用について

可燃性ガス、爆発性ガスまたは蒸気が発生あるいは貯蔵されている場所、およびその周辺で の使用は、爆発および火災の危険があります。このような環境下では、製品を動作させない でください。

下記に示す使用上の警告・注意事項は、使用者の身体・生命に対する危険および製品の損傷・劣化などを避けるためのものです。必ず下記の警告・注意事項を守ってご使用ください。



●異物を入れないこと 通風口などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、水をこぼしたりしないで ください。また、ほこりの多い場所で使用しないでください。火災、感電、故障、事故など の原因となります。

■ 使用中の異常に関する警告事項

使用中に製品より発煙・発火・異臭などの異常が生じたときには、火災の危険がありますので、 直ちに使用を中止してください。本体の電源スイッチを切り、電源コードのプラグをコンセン トから抜いてください。他への類焼がないことを確認した後、本社またはお近くの営業所まで ご連絡ください。

■ 接地に関する警告事項

製品には使用者の感電防止および製品保護のため、接地端子が設けてあります。安全に使用す るために、必ず接地してからご使用ください。



■ 出力端子に関する注意事項

出力端子へは外部より電力を供給しないでください。ケーブルが直流電源等に触れると、内部 の減衰器が焼損する恐れがあります。

| 長期間使用しない場合の注意事項

長期間使用しない場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

■ 日常のお手入れについて

製品のケースパネル、ツマミの汚れを清掃する場所はシンナーやベンジンなどの溶剤は避けてくだ さい。塗装がはがれたり、樹脂面が侵されたりします。ケースパネル、つまみ等を拭くときは中性 洗剤を含ませた柔らかい布で軽く拭き取ってください。清掃の時は、製品の中に水、洗剤、その他 の異物が入らないようにご注意ください。また、清掃の時は電源プラグをコンセントから抜いてく ださい。

以上の警告・注意事項を順守し正しく安全にご使用ください。また、取扱説明書には個々の項目でも注 意事項が記載されていますので、それらの注意事項を順守し、正しくご使用ください。

取扱説明書の内容でご不審な点、またはお気付きの点がありましたら、本社またはお近くの営業所まで ご連絡いただきますよう、併せてお願いいたします。

1. はじめに

このたびは、リーダー電子の計測器をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。 製品を安全にご使用いただくため、ご使用前に本取扱説明書を最後までお読みいただき、製品の 正しい使い方をご理解の上、ご使用ください。

本取扱説明書をご覧になっても使い方がよくわからない場合は、取扱説明書の裏表紙に記載され ている本社またはお近くの営業所までお問い合わせください。本取扱説明書をお読みになった後 は、いつでも必要なときにご覧になれるように保管してください。

1.1 保証範囲

この製品は、リーダー電子株式会社の厳密なる品質管理および検査を経てお届けしたものです。 正常な使用状態で発生する故障について、お買い上げの日より1年間無償で修理を致します。 お買い上げ明細書(納品書,領収書など)は、保証書の代わりになりますので、大切に保管して ください。

保証期間内でも、次の場合には有償で修理させていただきます。

- 1. 火災、天災、異常電圧などによる故障、損傷。
- 2. 不当な修理、調整、改造された場合。
- 3. 取扱いが不適当なために生じる故障、損傷。
- 4. 故障が本製品以外の原因による場合。
- 5. お買い上げ明細書類のご提示のない場合。

この保証は日本国内で使用される場合に限り有効です。 This Warranty is valid only in Japan.

1.2 使用上の注意

1.2.1 入力端子の最大許容電圧について

/注意

入力端子に加える信号電圧には、表 1-1 のような制限があります。 制限を越える電圧を加えると、故障や損傷する場合がありますので、この値以上の電圧を加 えないでください。

表 1-1 入力端子の最大許容電圧

入力端子	最大許容入力電圧
リモート端子	0 ~ +5V
外部同期信号端子	-5 ~ +5V

1.2.2 スタンバイ時の注意

<u> 注意</u>注意

本器は、前面パネルで電源を切っても、電源コードがコンセントに接続されている状態では、 スタンバイ状態を維持しています。スタンバイ状態では、一部の内部回路が動作しており、 発熱することがあります。必要のないときは、なるべく電源コードをコンセントから外すよ うにしてください。また、ユニットの交換の際は、必ず電源コードをコンセントから抜いて 行ってください。故障の原因になります。

1.2.3 ラストメモリーについて

本器はラストメモリー機能を備えています。電源を入れると、前回電源を切ったときのパネル設定で起動します。

バックアップ電池が切れた場合は、ラストメモリー機能が動作しなくなります。また、時計 が初期化されます。このときは本社またはお近くの営業所までお問い合わせください。

ラストメモリー機能、および時計機能を継続的に使用するために、ご購入後5年ごとにバッ クアップ電池を交換されることを推奨します。なお、バックアップ電池の交換は、お客様自 身でできません。本社またはお近くの営業所までお問い合わせください。

1.2.4 衝撃について

本器は、精密な部品を使用していますので、落下などの強い衝撃が加えられた場合、故障の 原因となることがあります。また、液晶表示器が破損した場合、ガラス破片が飛び散りけが をすることがあります。

1.2.5 液晶表示器について

液晶表示器の一部に点灯しない画素や常時点灯する画素が存在する場合がありますが、故障 ではありません。

1.2.6 液晶表示のちらつきについて

本器の液晶表示は、多くのビデオ信号に対応するため、入力 SDI 信号に対して液晶表示は非 同期で行っており、波形表示やピクチャー表示等でちらついて見えることがあります。本器 は入力 SDI 信号を一度フレームメモリーに蓄積し、入力 SDI 信号とは同期関係のない液晶表 示同期信号で読み出しを行っています。このため、フレームメモリーを読み飛ばすフレーム スキップやフレームメモリーを 2 度読みするフレームリピートが起こりちらついて見える ことがあります。

1.2.7 キャビネットについて

キャビネットは指定の型番を使用してください。 なお、本器を以下の型番の旧キャビネットに取り付けることはできませんので、注意してく ださい。

LR 2404 / LR 2427 / LR 2427A / LR 2400-AI / LR 2400-AM / LR 2400-VI / LR 2400-VM / LR 2700-I 1.3 廃棄について



図 1-1 欧州の WEEE 指令によるマーク

本製品および付属品は、欧州の WEEE 指令の対象品です。 本製品および付属品を廃棄するときは、各国、各地域の法規制に従って処理してください。 (WEEE 指令:廃電気電子機器指令, Waste Electrical and Electronic Equipment) なお、本製品から取り外した電池は EU 電池指令に従って処理してください。

2. 本取扱説明書について

本器は、別途オプションで用意しているユニットを実装してはじめて測定器として動作します。 また、本体の操作方法は、ユニットの実装状況により異なります。本取扱説明書では、本体の取 り扱いについて、各ユニットの実装状況に関わらず共通に動作する部分のみを説明したものです。 実装している各ユニットに付属の取扱説明書もよくご覧になり、ご理解の上、操作してください。

なお、本取扱説明書では、LV 5800(A)に以下のユニットが実装されているものとして記述しています。

● 入力ユニット

ユニット No. 1: LV 58SER01A (SDI INPUT) ユニット No. 2: LV 58SER01A (SDI INPUT) ユニット No. 3: LV 58SER02 (EYE PATTERN unit) ユニット No. 4: LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)

● 出力ユニット

ユニット No.5:なし ユニット No.6:LV 58SER20(DVI-I OUTPUT unit)

ユニット番号の配置に関しては、「図 4-2 背面パネル」を参照してください。

3. 製品仕様

3.1 概要

本器は、各種入出力ユニットを自由に組み合わせて、柔軟な対応が図れる新コンセプトのマル チモニターです。別途用意されている入出力ユニットを組み合わせることで、複雑化するディ ジタル放送システムにおいて、柔軟なシステムを構成していくことができます。

3.2 特長

● 4系統の入力スロット

自由な組み合わせで入力ユニットを最大4枚挿入できます。 各入力ユニットはそれぞれ独立動作します。

● 2系統の出力スロット

自由な組み合わせで出力ユニットを最大2枚挿入できます。 各出力ユニットはそれぞれ独立に動作します。

● 表示機能

XGA 分解能(1024×768)のカラーTFT 液晶表示器を採用しています。 各ユニットが持つ表示機能を1画面で表示したり、2または4画面マルチで表示したりす ることができます。 マルチ画面表示では、異なる入力ユニットの信号を自由な組み合わせで表示することがで きます。

● 外部同期信号入力

ビデオ信号波形表示を外部同期信号の位相に合わせて表示することができます。

● USB 端子

フロントパネルの USB 端子に USB メモリーを接続することで、画面のキャプチャやデータの記録、プリセット内容の保存ができます。

● イーサーネット端子

背面パネルのイーサーネット端子にコンピュータを接続し、TELNET や FTP を起動することでリモートコントロールやエラーの監視、ファイルの転送が可能です。

● リモート端子

背面のリモート端子を使用することで、プリセット内容の呼び出しやエラーアラームの出 力、入力チャンネルの切り換えが可能です。

● 静音冷却システム

サイレント FAN を採用。回転センサにより、故障による FAN 停止時には、画面にアラーム を表示させる機能を持っています。

また、温度センサにより回転数の制御を行っています。

3.3 規格

- 3.3.1 スロット
 - 入力スロット数4出力スロット数2

3.3.2 液晶表示器

液晶表示器タイプ	
LV 5800A	6.5型 TFT カラー液晶
LV 5800	6.3型 TFT カラー液晶
表示方式	XGA(有効領域 1024×768 ドット)
バックライト明るさ	HIGH / LOW の選択式
自動消灯	自動消灯するまでの時間を設定可能
表示画面	1 画面表示、2 画面表示、4 画面表示

3.3.3 画面キャプチャ

機能	表示画面の取り込み
表示	取り込んだ画像を表示または入力信号と重ねて表示
メディア	内蔵メモリー(RAM)、USB メモリー
	内蔵メモリーには画面1枚分のみ記録(※)
データ出力	USB メモリーまたはイーサーネット経由にて、ビットマッ
	プ形式および本体に呼び出し可能なファイル形式で保存
データ入力	USB メモリーに保存したデータを呼び出して表示

※ LV 58SER01A(SDI INPUT)などビデオ信号フレームキャプチャ機能を持つユニットを挿入した場合、フレームキャプチャとスクリーンキャプチャの切り換え式。

3.3.4 プリセット

プリセット数	60 点
メディア	本体内蔵メモリーまたは USB メモリー
リコール方法	フロントパネル, リモート端子(※), イーサーネット
コピー	プリセットデータを USB メモリーに一括コピー
	または、USB から本器に一括コピー可能

※ リモート端子からのリコールは4点、6点、8点、15点、60点の切り換え式。

3.3.5 外部基準入力

入力信号	3値同期信号 またはNTSC / PALブラックバースト
入力端子	BNC コネクタ(1 系統 2 端子)
入力インピーダンス	15kΩ(パッシブループスルー)
入力リターンロス	30dB 以上(電源 ON 時、50 kHz~30 MHz)
	25dB以上(電源 0FF 時)
最大入力電圧	±5V(DC+ピーク AC)

3.3.6 外部制御端子

USB 端子	
規格	USB 2.0
デバイス	USB メモリーデバイスのみサポート
イーサーネット端子	
対応規格	IEEE802. 3
入出力端子	RJ-45
機能	外部コンピュータにより遠隔操作およびエラー等の監視
種類	10Base-T/100Base-TX
リモート端子	
機能	プリセットのリコール,検出したエラーの出力
制御信号	LV-TTL レベル(LOW アクティブ)
制御端子	D サブ 25 ピン(メス)

3.3.7 ヘッドホン出力

出力端子	3.5mm ミニチュアジャック1端子(ステレオ)
機能	LV 58SER40A(DIGITAL AUDIO)のようにオーディオ再生機能
	を持つユニット挿入時に有効
出力電力	120mWrms(0dBFS 入力でボリューム最大時)
負荷抵抗	8Ω

3.3.8 一般仕様

環境条件 動作温度範囲 $0 \sim 40^{\circ} C$ 動作湿度範囲 85%RH以下 ただし、結露のないこと 性能保証温度範囲 10∼30°C 性能保証湿度範囲 85%RH以下 ただし、結露のないこと 使用環境 屋内 使用高度 2000m まで 過電圧カテゴリ П 汚染度 2 AC 90~250V, 50Hz/60Hz, 150Wmax. 電源 寸法 $215 (W) \times 133 (H) \times 449 (D) mm$ 質量 5kg 付属品 取扱説明書.....1 電源コード.....1 カバーインレットストッパー.....1 ラック用取り付けインチねじ.....2 D サブ 25 ピン コネクタ1

D サブ 25 ピン コネクタカバー1

- 4. 各部の名称
- 4.1 前面パネル



図 4-1 前面パネル

- 4.1.1 INPUT グループ
 - UNIT 1 キー (ユニット1 キー)
 ユニット1の入力信号を選択されているエリアに表示します。
 →「6.2.3 入力信号の選択」参照
 - 2 UNIT 2 キー (ユニット 2 キー)

ユニット2の入力信号を選択されているエリアに表示します。 →「6.2.3 入力信号の選択」参照

3 UNIT 3 キー (ユニット 3 キー)

ユニット3の入力信号を選択されているエリアに表示します。 →「6.2.3 入力信号の選択」参照

4 UNIT 4 キー (ユニット 4 キー)

ユニット4の入力信号を選択されているエリアに表示します。 →「6.2.3 入力信号の選択」参照

5 A キー (A 入力キー)

選択されているユニットのA入力の信号を選択されているエリアに表示します。 LV 58SER01A(SDI INPUT)のように、A/B 2つの入力を持つユニットの際に有効です。 1つのユニットに3つ以上の入力端子や複数チャンネルを持つ場合、チャンネル選択キ ーとして使用します。この場合キーを押すことで、小さい数字番号のチャンネルを選択 します。 →「6.2.3 入力信号の選択」参照

6 Bキー (B入力キー)

選択されているユニットのB入力の信号を選択されているエリアに表示します。 LV 58SER01A(SDI INPUT)のように、A/B 2 つの入力を持つユニットの際に有効です。 1 つのユニットに3 つ以上の入力端子や複数チャンネルを持つ場合、チャンネル選択キ ーとして使用します。この場合キーを押すことで、大きい数字番号のチャンネルを選択 します。

→「6.2.3 入力信号の選択」参照

4.1.2 DISPLAY グループ

7 1キー(第1エリア選択キー)

4 画面マルチ表示の際にこのキーを使用すると、左上の第1エリアが選択されます。 2 画面マルチ表示の際にこのキーを使用すると、4 画面マルチ表示上で左上の第1エリ アに表示されていたものを、左側半分に拡大表示します。 1 画面表示の際にこのキーを使用すると、4 画面マルチ表示上で、左上の第1エリアに 表示されていたものを、画面全体に拡大表示します。 → 「6.2.1 表示エリアの選択」参照

8 2キー(第2エリア選択キー)

4 画面マルチ表示の際このキーを使用すると、右上の第2エリアが選択されます。 2 画面マルチ表示の際にこのキーを使用すると、4 画面マルチ表示上で右上の第2エリ アに表示されていたものを、右側半分に拡大表示します。 1 画面表示の際にこのキーを使用すると、4 画面マルチ表示上で、右上の第2エリアに 表示されていたものを、画面全体に拡大表示します。 → 「6.2.1 表示エリアの選択」参照

9 3キー(第3エリア選択キー)

4 画面マルチ表示の際このキーを使用すると、左下の第3エリアが選択されます。 2 画面マルチ表示の際にこのキーを使用すると、4 画面マルチ表示上で左下の第3エリ アに表示されていたものを、左側半分に拡大表示します。 1 画面表示の際にこのキーを使用すると、4 画面マルチ表示上で、左下の第3エリアに 表示されていたものを、画面全体に拡大表示します。 → 「6.2.1 表示エリアの選択」参照

10 4キー(第4エリア選択キー)

4 画面マルチ表示の際このキーを使用すると、右下の第4エリアが選択されます。 2 画面マルチ表示の際にこのキーを使用すると、4 画面マルチ表示上で右下の第4エリ アに表示されていたものを、右側半分に拡大表示します。 1 画面表示の際にこのキーを使用すると、4 画面マルチ表示上で、右下の第4エリアに 表示されていたものを、画面全体に拡大表示します。 → 「6.2.1 表示エリアの選択」参照 11 V POS (垂直位置調整ツマミ)

ビデオ信号波形表示やアイパターン表示などで垂直方向の表示位置を調整します。 ツマミを押すと基準の垂直位置に戻ります。

12 H POS (水平位置調整ツマミ)

ビデオ信号波形表示やアイパターン表示などで水平方向の表示位置を調整します。 ツマミを押すと基準の水平位置に戻ります。

13 MULTI キー (マルチ表示キー)

4 画面あるいは2 画面のマルチ表示と1 画面表示を切り換えます。 キーを押す度にキーLED が点灯/消灯を繰り返し、キーLED が点灯している際はマルチ画 面表示、キーLED が消灯している際は1 画面表示となります。 →「6.2.2 表示形態の選択」参照

14 OVLAY キー (オーバーレイ表示キー)

選択されているエリアにコンポーネントビデオ信号波形を表示する際、重ねて表示する (オーバーレイ)か、並べて表示する(パレード)かを切り換えます。 キーを押す度にキーLED が点灯/消灯を繰り返し、キーLED が点灯している際は重ねて表 示、キーLED が消灯している際は並べて表示します。 OVLAY キーの切り換えは、4 画面マルチ表示のエリアごとに独立して行えます。

15 CH1 キー (チャンネル1選択キー)

選択されているエリアにコンポーネントビデオ信号波形を表示する際、CH1 に割り当て られている信号の表示/非表示を切り換えます。 キーを押す度にキーLED が点灯/消灯を繰り返し、キーLED が点灯している際は CH1 に割 り当てられている信号を表示、キーLED が消灯している際は非表示となります。 CH1 キーの切り換えは、4 画面マルチ表示のエリアごとに独立して行えます。

16 CH2 キー (チャンネル 2 選択キー)

選択されているエリアにコンポーネントビデオ信号波形を表示する際、CH2 に割り当て られている信号の表示/非表示を切り換えます。 キーを押す度にキーLED が点灯/消灯を繰り返し、キーLED が点灯している際は CH2 に割 り当てられている信号を表示、キーLED が消灯している際は非表示となります。 CH2 キーの切り換えは、4 画面マルチ表示のエリアごとに独立して行えます。

17 CH3 キー (チャンネル3 選択キー)

選択されているエリアにコンポーネントビデオ信号波形を表示する際、CH3 に割り当て られている信号の表示/非表示を切り換えます。 キーを押す度にキーLED が点灯/消灯を繰り返し、キーLED が点灯している際は CH3 に割 り当てられている信号を表示、キーLED が消灯している際は非表示となります。 CH3 キーの切り換えは、4 画面マルチ表示のエリアごとに独立して行えます。

4.1.3 MODE グループ

18 WFM キー (ビデオ信号波形表示キー)

選択されているエリアにビデオ信号波形を表示します。 ビデオ信号波形表示は、4 画面マルチ表示のエリアごとに独立して行えます。 LV 58SER01A(SDI INPUT)など、ビデオ信号入力を持つユニットが必要です。 →「6.4 ビデオ信号波形表示」参照

19 VECT キー (ベクトル波形表示キー)

選択されているエリアにベクトル信号波形を表示します。 ベクトル信号波形表示は、4 画面マルチ表示のエリアごとに独立して行えます。 LV 58SER01A(SDI INPUT)など、ビデオ信号入力を持つユニットが必要です。 →「6.5 ベクトル波形表示」参照

20 PIC キー (ピクチャー表示キー)

選択されているエリアにピクチャーを表示します。 ピクチャー表示は、4 画面マルチ表示のエリアごとに独立して行えます。 LV 58SER01A(SDI INPUT)など、ビデオ信号入力を持つユニットが必要です。 →「6.6 ピクチャー表示」参照

21 AUDIO キー(オーディオ表示キー)

選択されているエリアにオーディオを表示します。 オーディオ表示は、4 画面マルチ表示のどのエリアにも表示できますが、同時に表示で きる機能に制限があります。 オーディオ表示機能を持つ、LV 58SER40A(DIGITAL AUDIO)が必要です。 →「6.7 オーディオ表示」参照

22 STATUS キー(ステータス表示キー)

選択されているエリアに入力信号のエラーや解析結果を表示します。 ステータス表示は、4 画面マルチ表示のエリアごとに独立して行えます。 LV 58SER01A(SDI INPUT)など、ディジタル信号解析機能を持つユニットが必要です。 →「6.8 ステータス表示」参照

※ オーディオ信号およびアイパターン表示に関するエラーや解析結果は、それぞれオーディオ表示、 アイパターン表示で行います。

23 EYE キー (アイパターン表示キー)

選択されているエリアにアイパターンを表示します。 アイパターン表示は、4 画面マルチ表示のどのエリアにも表示できますが、同時に表示 できる機能に制限があります。 アイパターン表示機能を持つ、LV 58SER02(EYE PATTERN unit)または LV 58SER07(EYE PATTERN)が必要です。 → $\lceil 6.9 \quad \text{アイパターン表示} \rceil$ 参照

4.1.4 PRESET グループ

24 MEM キー (メモリーキー)

本器のキー設定、メニュー設定を記憶させるときに使用します。 →「9.1 プリセットの登録とファイル操作」参照

25 RCLL キー(リコールキー)

本器に記憶させたキー設定、メニュー設定を呼び出すときに使用します。 →「9.2 プリセットの呼び出し」参照

4.1.5 その他

- 26 F・D (ファンクションダイヤル) メニュー操作で数値設定やカーソルの移動に使用します。 ツマミを押すと基準値が設定されます。
- 27 USB (USB 端子)

USB メモリーを接続します。解析データやキャプチャデータなどを保存できます。USB 2.0 に対応しています。

28 PHONES (ヘッドホン端子)

ヘッドホンを接続するミニチュアジャックです。 オーディオ機能を持つ、LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)が必要です。

29 EXT キー (外部同期設定キー)

選択されているエリアのビデオ信号波形表示で、表示の基準となる同期信号を外部同期 信号にするか、波形表示している信号自身の同期信号にするかを切り換えます。 キーを押す度にキーLED が点灯/消灯を繰り返し、キーLED が点灯している際は外部同期 信号による表示、キーLED が消灯している際は波形表示している信号自身の同期信号に よる表示となります。 外部同期の設定は、4 画面マルチ表示のエリアごとに独立して行えます。 LV 58SER01A(SDI INPUT)など、ビデオ信号入力を持つユニットが必要です。

30 CAP キー (キャプチャキー)

画面の静止画データを作成するときに使用します。静止画データは USB メモリーにビッ トマップファイルとして保存できます。BSG ファイルとして静止画データを USB メモリ ーに保存した場合は、本器に読み戻すことにより再度静止画を表示することができます。 LV 58SER01A (SDI INPUT)または LV 58SER06 (3G-SDI INPUT)を実装している場合は、1 フ レーム分のビデオデータを内蔵メモリーに保存し、ビデオ信号波形表示やベクトル表示、 ピクチャ表示ができます。またこのデータを USB メモリーに保存したり、本器に読み戻 して再度表示したりすることができます。 →「8 キャプチャ機能」参照

31 SYS キー(システムキー)

本体や各ユニットに関するシステム設定、エラー検出設定などを行います。 →「7 システム設定」参照

32 電源スイッチ

電源スイッチです。電源の入切状態を記憶している電子スイッチです。

- ※ 電源スイッチを切った状態でもスタンバイ状態を保持しています。スタンバイ状態では、15W程度の電力を消費しており、ある程度発熱いたします。長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 33 F·1~F·7(ファンクションキー)

メニュー操作に使用します。

4.2 背面パネル

図 4-2 は、本体に以下のユニットを実装した例です。

● 入力ユニット

ユニット No.1:LV 58SER01A(SDI INPUT) ユニット No.2:LV 58SER01A(SDI INPUT) ユニット No.3:LV 58SER02 (EYE PATTERN unit) ユニット No.4:LV 58SER40A(DIGITAL AUDIO)

● 出力ユニット

ユニット No.5:なし ユニット No.6:LV 58SER20(DVI-I OUTPUT unit)



4.2.1 LV 5800(A)背面パネル

34 ETHERNET (イーサーネット端子)

10BASE-T および 100BASE-TX 対応のイーサーネット接続端子です。 コンピュータ等と直接接続するときは、クロスケーブルを使用します。 ハブを介してコンピュータ等に接続するときは、ストレートケーブルを使用します。 →「7.2.2 イーサーネットの設定」参照 35 REMOTE (リモート端子)

D-sub 25 ピンのリモートコントロール端子です。 あらかじめプリセットされた本体設定を呼び出すことができます。呼び出し方法には、 最大 8 点と最大 60 点の二通りあります。呼び出し方法の切り換えは、システムメニュ ーから行います。 エラーの出力や入力 A/B チャンネルの切り換えもできます。 →「7.2.3 リモート端子の設定」参照

36 シリアル番号

製造番号です。お問い合わせの際は、記載されている番号をご連絡ください。

37 機器接地端子

外部のグラウンド(接地)と接続します。

注意

感電防止のため、必ず接地してからご使用ください。

38 電源入力端子

AC 電源の入力端子です。

注意

必ず、90~250Vの範囲でご使用ください。

39 通風口

本体冷却用の通風口です。

1 警告

通風口をふさいだ状態で使用しますと、発煙、発火の恐れがあります。 通風をふさがないようにしてお使いください。 →「5.3 通風口について」参照

40 EXT REF (外部同期入力端子)

ビデオ信号波形表示の際の外部同期信号入力端子です。 入力はループスルーになっています。縦続接続の末端で 75Ω終端してください。入力 信号は、HDTV 3値同期信号とNTSC/PAL ブラックバースト信号に対応しています。

<u>注</u>意

信号入力の際、入力端子に過大入力を投入すると故障の原因となります。 最大入力電圧範囲に注意して信号を入力してください。 外部同期入力端子の最大入力電圧範囲は、±5Vです。

- 4.2.2 LV 58SER01A (SDI INPUT) 背面パネル
 - 41 INPUT SDI A (SDI 信号 A 入力端子)
 - 43 INPUT SDI B (SDI 信号 B 入力端子)

シリアルディジタルビデオ(SDI)信号の入力端子です。 それぞれの入力端子は、内部で 75Ω終端されているので、終端器の接続は不要です。 接続ケーブルは、特性インピーダンス 75Ωのものをご使用ください。

<u>注</u>意

信号入力の際、入力端子に過大入力を投入すると故障の原因となります。 最大入力電圧範囲に注意して信号を入力してください。 SDI 入力端子の最大入力電圧範囲は、-2~+2Vです。

- 42 OUTPUT SDI A/B (SDI 信号 A/B 出力端子)
- 44 OUTPUT SDI B (SDI 信号 B 出力端子)

シリアルディジタルビデオ(SDI)信号のリクロック出力です。SDI 信号入力端子に入力 したシリアルディジタルビデオ(SDI)信号をシリアルリクロックして出力します。SDI 入力対応のピクチャーモニター等に接続してお使いください。受信端で 75Ω終端が必 要です。OUTPUT SDI A/B は INPUT SDI A/B の出力、OUTPUT SDI B は INPUT SDI B の出 力です。

- 4.2.3 LV 58SER02(EYE PATTERN unit)背面パネル
 - 45 JITTER OUT (ジッタ出力)

LV 58SER02 で観測したシリアルディジタル(SDI)信号のジッタ量を電圧にして出力します。

4.2.4 LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO) 背面パネル

- 46 AES/EBU IN/OUT CH 1/2 (ディジタルオーディオ入出力端子 CH 1/2)
- 47 AES/EBU IN/OUT CH 3/4 (ディジタルオーディオ入出力端子 CH 3/4)
- 48 AES/EBU IN/OUT CH 5/6 (ディジタルオーディオ入出力端子 CH 5/6)
- 49 AES/EBU IN/OUT CH 7/8 (ディジタルオーディオ入出力端子 CH 7/8)

AES/EBU(ディジタルオーディオ)信号の入出力端子です。入出力の切り換えは、システムメニューから行います。

LV 58SER01A(SDI INPUT)または LV 58SER06(3G-SDI INPUT)を実装していて、LV 58SER40A(DIGITAL AUDIO)の設定を出力にしている場合は、選択されている SDI 信号の エンベデッドオーディオを分離して AES/EBU として出力します。

<u> 注意</u>

ディジタルオーディオ入出力端子の設定を出力にした状態で、外部から信号を入力する と故障の原因となります。AES/EBU 信号を入力する際は、必ず入出力設定の状態を確認 してから行ってください。

信号入力の際、入力端子に過大入力を投入すると故障の原因となります。 最大入力電圧範囲に注意して信号を入力してください。 ディジタルオーディオ入出力端子の最大入力電圧範囲は、-5~+5Vです。

4.2.5 LV 58SER20(DVI-I OUTPUT unit)背面パネル

50 DVI-I OUTPUT (DVI-I 出力端子)

TMDS 方式のシリアルディジタル出力とアナログ RGB 出力の両方に対応した出力端子で す。本体の前面パネルに表示されているものを DVI-I で出力します。外部 LCD 等に接続 してお使いください。

4.3 表示画面



51 ファンクションメニュー

各種設定を行うためのメニューを表示します。メニュー操作は、F・1~F・7 キーや F・D で行います。

52 選択エリア

選択しているエリアを青枠で表示します。枠の色は SYS キーを押したときに表示するシス テムメニューから F・2 (PLATFORM SETUP)を選択して設定できます。エリアの選択は、1~4 キーで行います。

→「7.2.1 本体の一般的な設定」参照

53 入力信号の状態

入力信号の状態を表示します。 SDI 信号を選択している場合やオーディオ信号を選択している場合で表示が異なります。 詳しくは、各ユニットの取扱説明書をご覧ください。

54 日付

日付を表示します。日付は SYS キーを押したときに表示するシステムメニューから、F・ 3(DATE & TIME)を選択して設定できます。 →「7.2.4 日付と時間の設定」参照

55 時刻

現在の時刻を表示します。時刻は SYS キーを押したときに表示されるシステムメニューから、F・3(DATE & TIME)を選択して設定できます。 →「7.2.4 日付と時間の設定」参照

56 アラーム

アラームを表示します。1 画面表示のときはエラーを表示します。 また、内蔵冷却ファンに異常が起きたとき FAN ALARM の表示をします。 このときは、電源を切り修理を依頼してください。

57 USB メモリーの状態

USBメモリーが USB に接続している場合、アイコンを表示します。 通常は緑の表示ですが、USBメモリーにアクセスしている間は、赤の表示になります。

<u>注</u>意

アイコンが赤の表示の間は、USBメモリーを抜かないでください。データの破壊やUSBメ モリーの破損となる場合があります。

5. 各ユニットの実装

ユニットの取り付け、取り外しは、お客様ご自身の責任で行ってください。お客様の取り扱いの 不備による製品の故障については、保証期間内であっても有償修理とさせていただきます。

<u> 注意</u>

本器は、前面パネルの電源スイッチを切った状態でもスタンバイ状態を保持するために内部回路 は通電しています。各ユニットの取り付け、取り外しは、必ず電源プラグをコンセントから抜い た状態で行ってください。感電や故障の原因となります。電源プラグがコンセントに接続されて、 前面パネルの電源スイッチを切った状態の場合、図 5-3のスタンバイランプが点滅しています。

ユニットを扱う際は、手袋等を着用し素手で扱わないでください。部品等で怪我をすることがあ ります。

各ユニットや本体の電子部品は、静電気放電により故障、損傷する恐れがあります。各ユニットの取り付け、取り外しの際には下記に従ってください。

- ・帯電された場所では作業を行わないでください。
- ・作業中は帯電防止用リストバンドと手袋を着用してください。
- ・ユニット内の部品にできるだけ触れないようにしてください。

5.1 ユニットの取り外し

各ユニットの取り付け、取り外しを行うには、上蓋を外します。 図 5-1 のように、17 個のネジを外し、上蓋を外します。



図 5-1 上蓋の取り外し

次に、図 5-2のように、ユニットの前面パネル側にある赤いイジェクタを軽く引き上げます。 反対側の手でユニットの背面側を引き上げます。そして、ユニットを少しずつ引き抜いていき ます。



図 5-2 ユニットの取り外し

5.2 ユニットの実装

本体に実装可能なユニットは、入力ユニットと出力ユニットに大別できます。入力ユニットは、 図 5-3 にユニット No. 1~4(入力)と表示されている位置に実装可能です。出力ユニットは、同 図でユニット No. 5~6(出力)と表示されている位置に実装可能です。

<u>注</u>意

各ユニットを誤った位置に実装すると故障の恐れがあります。



図 5-3 ユニットの実装位置

まず、実装する位置にある基板コネクタのピンが曲がっていたり、折れていたりしないことを 確認します。

次に、ユニットを基板ガイドに合わせて、ゆっくり滑らせます。図 5-4 のように、基板コネ クタに差し込む前に、ユニットの基板コネクタと本体の基板コネクタの位置がずれていないこ とを確かめます。



図 5-4 ユニットの位置合わせ

ユニットの基板コネクタと本体の基板コネクタの位置を正確に合わせたら、図 5-5のように、 ユニットの両端を上部から押しこみます。このとき違和感が感じられる場合は基板を引き抜き、 基板コネクタのピンが曲がっていないか確認し、再度押しこんでください。



図 5-5 ユニットの差し込み

<u> </u>注意

各ユニットを抜き差しするときは、本体側の接続コネクタに気をつけて行ってください。斜め に抜き差しすると、コネクタピンが曲がってしまい、マザーボード交換になる恐れがあります。

5.2.1 LV 58SER01A (SDI INPUT)の実装

LV 58SER01A は、LV 5800(A)のユニット No. 1~4(入力)へ実装してください。ユニット No. 5 ~6(出力)に実装すると動作しません。

LV 58SER01A を 1 枚実装するときは、ユニット No.1(入力) へ実装し、2 枚、3 枚、4 枚と実装していくときは、順番にユニット No.2(入力)、ユニット No.3(入力)、ユニット No.4(入力) へ実装してください。最大 4 枚まで実装可能です。

5.2.2 LV 58SER02(EYE PATTERN unit)の実装

LV 58SER02 は、LV 58SER01A(SDI INPUT)とLV 58SER04(MPEG DECODER)合わせて 3 枚までの アイパターン表示に対応しています。アイパターンを表示するには、相互をケーブルで接続 する必要があります。

LV 58SER02 は、1 ユニットのみ実装可能です。複数の LV 58SER02 を実装することはできま せん。また、LV 58SER02 と LV 58SER07 (EYE PATTERN) を同一の本体に実装することはできま せん。

LV 58SER02 を実装する場合は、なるべく LV 58SER01A または LV 58SER04 の次のユニット No. (入力)へ実装してください。

下記にLV 58SER02の実装手順を示します。

1. 図 5-6 のように出荷状態の LV 58SER02 を用意します。

出荷状態では、J2 SDI (ST)に同軸ケーブルが接続されています。



図 5-6 LV 58SER02(EYE PATTERN unit)出荷状態

 LV 58SER01A と LV 58SER04 を合わせて 2 枚実装するときは、別売ケーブルを図 5-7 の ように LV 58SER02 の J3 (0P1)に取り付けます。



図 5-7 LV 58SER01A とLV 58SER04 を合わせて 2 枚実装する場合

 LV 58SER01A と LV 58SER04 を合わせて 3 枚実装するときは、さらに別売ケーブルを図 5-8 のように LV 58SER02 の J1 (0P2)に取り付けます。



図 5-8 LV 58SER01A と LV 58SER04 を合わせて 3 枚実装する場合

4. LV 58SER02 を LV 5800(A)に実装します。

LV 58SER01A または LV 58SER04 を 1 枚実装するときは、LV 58SER02 をユニット No. 2(入 力) へ実装します。 LV 58SER01A と LV 58SER04 を合わせて 2 枚実装するときは、LV 58SER02 をユニット No. 3(入力) へ実装します。 LV 58SER01A と LV 58SER04 を合わせて 3 枚実装するときは、LV 58SER02 をユニット No. 4(入力) へ実装します。

5. LV 58SER01AとLV 58SER04をLV 5800(A)から取り外し、終端器を外します。

LV 58SER01A の場合は J5 の終端器を外します。



図 5-9 LV 58SER01A に接続されている終端器

LV 58SER04 の場合は J4 の終端器を外します。



図 5-10 LV 58SER04 に接続されている終端器

6. LV 58SER01A と LV 58SER04 に同軸ケーブルを接続します。

LV 58SER01A または LV 58SER04 を 1 枚実装するときは、ユニット No. 1 に実装する基板 のコネクタ(※)と LV 58SER02 の J2 SDI (ST)を接続します。 LV 58SER01A と LV 58SER04 を合わせて 2 枚実装するときは、ユニット No. 2 に実装する 基板のコネクタ(※)と LV 58SER02 の J3 (OP1)を接続します。 LV 58SER01A と LV 58SER04 を合わせて 3 枚実装するときは、ユニット No. 3 に実装する 基板のコネクタ(※)と LV 58SER02 の J1 (OP2)を接続します。



※ LV 58SER01AのJ5またはLV 58SER04のJ4

同軸ケーブルを接続 するときは、「カチッ」 という音がするまで 挿入してください。

図 5-11 LV 58SER01A に同軸ケーブルを接続



図 5-12 LV 58SER04 に同軸ケーブルを接続

7. LV 58SER01A と LV 58SER04 を LV 5800(A)に実装して完了です。

下図はユニット No.1、No.2 に LV 58SER01A、ユニット No.3 に LV 58SER02 を実装した 例です。



図 5-13 LV 58SER02 の実装例

5.2.3 LV 58SER03A(TRI SYNC/COMPOSITE)の実装

LV 58SER03A は、LV 5800(A)のユニット No. 1~4(入力)へ実装してください。ユニット No. 5~6(出力)に実装すると動作しません。

LV 58SER03A を 1 枚実装するときはユニット No.1(入力) へ実装し、2 枚、3 枚、4 枚と実装 していくときは、順番にユニット No.2(入力)、ユニット No.3(入力)、ユニット No.4(入力) へ実装してください。最大4 枚まで実装可能です。

5.2.4 LV 58SER04 (MPEG DECODER)の実装

LV 58SER04 は、LV 5800(A)のユニット No.1~4(入力)へ実装してください。ユニット No.5 ~6(出力)に実装すると動作しません。

LV 58SER04 を1 枚実装するときはユニット No.1(入力) へ実装し、2 枚、3 枚、4 枚と実装し ていくときは、順番にユニット No.2(入力)、ユニット No.3(入力)、ユニット No.4(入力) へ 実装してください。最大4 枚まで実装可能です。

5.2.5 LV 58SER06(3G-SDI INPUT)の実装

LV 58SER06 は、LV 5800(A)のユニット No.1~4(入力)へ実装してください。ユニット No.5 ~6(出力)に実装すると動作しません。

LV 58SER06 を1枚実装するときはユニット No.1(入力)へ実装し、2枚、3枚、4枚と実装し ていくときは、順番にユニット No.2(入力)、ユニット No.3(入力)、ユニット No.4(入力)へ 実装してください。最大4枚まで実装可能です。

5.2.6 LV 58SER07(EYE PATTERN)の実装

LV 58SER07 は、LV 5800(A)のユニット No. 1~4(入力)のいずれかへ実装してください。ユニ ット No. 5~6(出力)に実装すると動作しません。

LV 58SER07 は LV 58SER06 と組み合わせて使用するため、LV 58SER06 と隣り合うように実装 することを推奨します。

LV 58SER07 は、1 ユニットのみ実装可能です。複数の LV 58SER07 を実装することはできま せん。また、LV 58SER02(EYE PATTERN unit)と LV 58SER07 を同一の本体に実装することは できません。

5.2.7 LV 58SER20(DVI OUTPUT unit)の実装

LV 58SER20 は、LV 5800(A)のユニット No.5~6(出力)へ実装してください。No.1~4(入力) に実装すると動作しません。

5.2.8 LV 58SER21 (ANALOG COMPONENT OUTPUT)の実装

LV 58SER21 は、LV 5800(A)のユニット No. 5~6(出力)へ実装してください。No. 1~4(入力) に実装すると動作しません。

5.2.9 LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)の実装

LV 58SER40A を 1 枚実装するときは、LV 5800(A)のユニット No. 1~4(入力) へ実装してくだ さい。2 枚実装するときはユニット No. 1~4(入力)とユニット No. 5~6(出力) へ、3 枚実装す るときはユニット No. 1~4(入力)とユニット No. 5(出力)、ユニット No. 6(出力) へそれぞれ 実装してください。最大 3 枚まで実装可能です。

- ※ LV 58SER40A をユニット No. 1~4(入力)に2枚以上実装することはできません。
- ※ LV 58SER40A をユニット No. 5~6(出力)のみに実装した場合、オーディオ信号は出力されません。
- ※ LV 58SER40A と LV 58SER40 が混在しているときは、ユニット No. 1~4(入力)に LV 58SER40A を実装してください。

ユニット No. 1~4(入力)に実装するユニットが LV 58SER40A の場合は、LV 58SER40A に付属 のアナログオーディオ用ケーブルで LV 5800(A)と LV 58SER40A とを接続します。以下の手 順に従って接続してください。

LV 58SER40 の場合、この作業は不要です。LV 58SER40 では、アナログオーディオ信号を測 定することができません。



図 5-14 LV 5800(A)とLV 58SER40Aとの接続

1. アナログオーディオ用ケーブル(4 ピン端子側)を CPU 基板のコネクタ(P12)に接続しま す。

CPU 基板はユニット No.6(出力)の隣にあります。状況に応じてユニット No.1~6に実装 されているユニットを取り外してからケーブルを接続してください。 ケーブルの1ピン(茶色)が下になるように接続します。1ピンのマークはコネクタの上

面に表示されています。



図 5-15 LV 5800(A) にケーブルを接続

- 2. 手順1でユニット No.1~6 に実装されているユニットを取り外した場合は、再び元の位置に取り付けます。
- 3. アナログオーディオ用ケーブル(8 ピン端子側)をLV 58SER40A のコネクタ(J3)に接続し ます。

ケーブルの1ピン(茶色側)が前面パネルから見て手前になるように接続します。ケーブルはユニット No. 1~6の上を通してください。



図 5-16 LV 58SER40A にケーブルを接続

5.3 通風口について

本器は、図 5-17 のように、前方の上蓋と左右および背面パネル、後方の上蓋と左右にそれぞ れ通風口が設けられています。これらの通風口をふさぐような設置はしないでください。故障 および発煙、発火の原因となります。



28
操作手順の概要

6.1 ユニットの種類による動作の違い

この項目では、各ユニットの動作に関する概念を説明します。 本器はユニット構成を自由に構築できますが、一部実装に制限があるユニットや操作方法に特 異な点があるユニットがあります。

本器に複数のユニットを実装しいている場合、この動作概念を理解した上で使用していただくと、スムーズな操作が可能となります。

6.1.1 入力ユニット

LV 58SER01A(SDI INPUT)は、入力ユニットに分類されます。ユニット自らが入力端子を持ち、 入力された信号を観測できます。

入力ユニットを実装している場合、そのユニットの入力信号を観測するときは、実装されて いるユニット番号のユニットキーを選択します。

6.1.2 出力ユニット

LV 58SER20(DVI-I OUTPUT unit)は、出力ユニットに分類されます。ユニット自らが入力端 子を持たず、出力端子のみのユニットを出力ユニットと分類します。 出力ユニットには、相当するユニット選択キーはなく、必要な設定はシステムメニューから 行います。

6.1.3 機能ユニット

LV 58SER02(EYE PATTERN unit)は、機能ユニットに分類されます。ユニット自ら入力端子も 出力端子(※)も持ちません。観測に必要な信号は、他のユニットから供給されます。LV 58SER02(EYE PATTERN unit)では、内部でLV 58SER01A(SDI INPUT)と接続されています。

機能ユニットの場合、実装されているユニット番号のユニット選択キーを押しても動作しま せん。信号源となるユニット番号のユニット選択キー(LV 58SER01A が実装されているユニ ット選択キー)を押してから、EYE キーを選択します。

※ 測定結果を出力するジッタ出力を備えていますが、被測定信号の入出力は持ちません。

6.1.4 複合ユニット

LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)は、複合ユニットに分類されます。ユニット自らに入力端子と 出力端子を持ち、エンベデッドオーディオを表示するため、LV 58SER01A (SDI INPUT)との内 部接続もあります。

LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)の場合、システムメニューで背面 BNC 端子の入出力を決められ ます。このとき、入力を選択すると背面 BNC へ AES/EBU 信号を入力することができます。一 方、出力を選択すると背面 BNC は出力端子に切り替わります。このように背面 BNC の入出力 を切り換えることで入力ユニットと出力ユニットの切り換えを行います。

背面 BNC が入力を選択しているとき、即ち、入力ユニットとして動作しているときは、LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)が実装されているユニット番号のユニット選択キーが有効になります。出力を選択しているとき、即ち、出力ユニットとして動作しているときは、実装されているユニット番号のユニット選択キーは動作しません。オーディオ表示している信号を背面 BNC から AES/EBU として出力します。

6. 操作手順の概要

また、エンベデッドオーディオを表示するときは、LV 58SER01A(SDI INPUT)が実装されているユニット番号のユニット選択キーを押して、次に AUDIO キーを押します。このとき、システムメニューの背面 BNC 端子の設定は入出力どちらでも構いません。

6.2 パネル操作の基本

この項目では、パネル操作についての概要を説明します。 本器の操作概念や操作手順による制約をご理解いただくまでは、この基本操作通りに行うこと をお勧めします。

ユニットの実装状況やユニットのシステム設定によっては、この基本操作通りに動作しない場合があります。詳しくは、各ユニットの取扱説明書をご覧ください。

6.2.1 表示エリアの選択

本器は、4 画面マルチ表示を動作の基本として設計されています。本器の操作を開始するには、最初に4 画面マルチ表示の内どのエリアについて操作するのかを選択します。表示エリアの選択は、1~4 キーを使用します。



4 画面マルチ表示のとき、各キーと表示エリアの関係は、図 6-1 のようになります。

図 6-1 エリア選択キーと4画面マルチ表示の位置の関係

2 画面マルチ表示のとき、各キーと表示エリアの関係は、図 6-2 のようになります。

1または2キーを押すと、4画面マルチ表示で設定した第1エリアの表示と第2エリアの表示が2画面マルチ表示されます。

3または4キーを押すと、4画面マルチ表示で設定した第3エリアの表示と第4エリアの表示が2画面マルチ表示されます。

1 画面表示でも、選択したエリアの表示が拡大表示されます。

6. 操作手順の概要





6.2.2 表示形態の選択

本器の表示形態には、1 画面表示とマルチ画面表示があります。 MULTI キーを押すことで、1 画面表示とマルチ画面表示が切り換えることができます。MULTI キーの LED は、マルチ画面表示のときに明るく点灯します。

また、マルチ画面表示には、図 6-3 のように 4 画面マルチ表示と 2 画面マルチ表示があり ます。マルチ画面表示のとき、4 画面マルチで表示するか 2 画面マルチで表示するかの切り 換えは、「7.2.1 本体の一般的な設定」で行います。



図 6-3 表示形態の種類

6.2.3 入力信号の選択

表示エリアの選択後、入力信号を選択します。入力信号を選択するには、信号を入力しているユニット番号のユニット選択キーを押します。LV 58SER01A(SDI INPUT)のように複数の入力端子を持つユニットの場合、さらにAまたはBキーを押して入力信号を切り換えます。

6.2.4 表示モードの選択

入力信号の選択後、表示形式を選択します。表示形式の選択は、MODE グループの中から選 択します。ビデオ信号波形表示をするときは、WFM キーを押します。その他、ベクトル表示、 ピクチャー表示、オーディオ表示、アイパターン表示、ステータス表示が選択できます。 現在の表示モードに対応していないユニットを選択したとき、表示モードは自動的に WFM に なります。例えば現在の表示モードが AUD のときに LV 58SER03A (TRI SYNC/COMPOSITE)が実 装されているユニットを選択すると、現在の表示モードは WFM になります。 それぞれの表示で詳細設定をする場合は、ファンクションメニューに沿って、設定します。 詳しくは、各ユニットの取扱説明書をご覧ください。

6.3 タブメニューの操作

本器は、メニュー操作中で複雑な設定が必要な場合は、通常のポップアップメニューの他に、 図 6-4 のようなタブメニューによる設定もあります。下記にタブメニューの操作方法を説明 します。

UNIT3 : LV58SER01A SDI Input Unit							
Anci	Ancillary Data Error Setup						
	Parity Erro	r ⊵[ON 🗆 OFF				
1	Checksum Er	ror 🗹	ON 🗆 OFF				
Embe	dded Audio	Error Setup	1				
	BCH Error		ON 🗆 OFF				
	DBN Error	X	ON 🗆 OFF				
Parity Error		r 🗹	ON 🗆 OFF				
Inhibit Line Error		e Error 🖻	ON 🗆 OFF				
COMPLETE	PREV	NEXT				CANCEL	

GENERAL SETUP ERROR SETUP1 ERROR SETUP2 ERROR SETUP3 ERROR SETUP4 ERROR SETUP5

図 6-4 タブメニュー

a) 項目の選択

F・D を回すと、□で示されるカーソルが移動します。選択したい項目にカーソルを合わせてF・D を押すと、その項目にチェックが入り選択されます。

タブメニューで示されるそれぞれの項目は、依存する他の項目の設定によってカーソルが 移動しない場合があります。

b) 数値の設定

タブメニューの中には、エラー検出のレベル設定など数値設定を行う項目があります。数 値設定は、下記の手順で行います。

F・D で数値設定を行う項目にカーソルを合わせます。(このとき依存する項目の設定によって合わせられないことがあります。カーソルが合わせられない場合は、その上にある項目の状態を確認してください。)

数値設定の項目にカーソルを合わせると、カーソルが青く塗りつぶされます。

F・Dを押します。このときカーソルは、青の塗りつぶしから緑の塗りつぶしへ変化します。

F・Dを回して、希望する値に合わせます。

値を合わせたら、F·Dを押して確定します。

c) タブの移動

通常、タブメニューは複数のタブにまたがって設定を行います。複数のタブを移動するに は、F・2(PREV)とF・3(NEXT)で行います。

d) 設定の確定と終了

タブメニューで設定したそれぞれの項目を確定して終了するには、F・1 (COMPLETE)を押します。設定した内容が適用されてタブメニューが終了し、ファンクションメニューが1つ上の階層に戻ります。

e) 設定の取り消しと終了

タブメニューで設定したそれぞれの項目を取り消して終了するには、F・7(CANCEL)を押し ます。設定した内容が適用されずにタブメニューが終了し、ファンクションメニューが1 つ上の階層に戻ります。

6.4 ビデオ信号波形表示

LV 58SER01A (SDI INPUT) に入力した SDI ビデオ信号波形を表示するには、下記の手順で行います。

a) 表示エリアの選択

MULTI キーで、マルチ画面表示か1 画面表示かを選択します。マルチ画面表示を選択した 場合、マルチ画面のどのエリアにビデオ信号波形を表示するか、1~4 キーを押します。

b) 入力信号の選択

UNIT 1~4 キーで LV 58SER01A(SDI INPUT)を実装しているユニット番号を選択します。LV 58SER01A(SDI INPUT)は、SDI 入力端子を 2 つ実装しているので、A キーまたは B キーで A/B 入力を選択します。

c) WFM の選択

WFM キーを押してビデオ信号波形を表示します。 ビデオ信号波形表示では、OVLAY キーや CH 1~3 キーも有効になります。

6.5 ベクトル波形表示

LV 58SER01A(SDI INPUT)に入力した SDI ビデオ信号のベクトル波形を表示するには、下記の手順で行います。

a) 表示エリアの選択

MULTI キーで、マルチ画面表示か1 画面表示かを選択します。マルチ画面表示を選択した 場合、マルチ画面のどのエリアにベクトル波形を表示するか、1~4 キーを押します。

b) 入力信号の選択

UNIT 1~4 キーでLV 58SER01A(SDI INPUT)を実装しているユニット番号を選択します。LV 58SER01A(SDI INPUT)は、SDI 入力端子を 2 つ実装しているので、A キーまたは B キーで A/B 入力を選択します。

c) VECT の選択

VECT キー押してベクトル波形を表示します。 表示エリアおよび入力信号の選択に変更がない場合は、VECT キーを押すだけで、ベクト ル波形表示になります。

6.6 ピクチャー表示

LV 58SER01A (SDI INPUT) に入力した SDI ビデオ信号のピクチャーを表示するには、下記の手順 で行います。

a) 表示エリアの選択

MULTI キーで、マルチ画面表示か1 画面表示かを選択します。マルチ画面表示を選択した 場合、マルチ画面のどのエリアにピクチャーを表示するか、1~4 キーを押します。

b) 入力信号の選択

UNIT 1~4 キーでLV 58SER01A(SDI INPUT)を実装しているユニット番号を選択します。LV 58SER01A(SDI INPUT)は、SDI 入力端子を 2 つ実装しているので、A キーまたは B キーで A/B 入力を選択します。

c) PIC の選択

PIC キーを押してピクチャーを表示します。 表示エリアおよび入力信号の選択に変更がない場合は、PIC キーを押すだけで、ピクチャ ー表示になります。

6.7 オーディオ表示

LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO) によるオーディオ表示する方法を説明します。 オーディオ表示は主に、LV 58SER01A (SDI INPUT) のエンベデッドオーディオの表示と、背面デ ィジタルオーディオ入出力端子に入力した外部オーディオの表示に分けられ、それぞれ入力信 号の選択方法が異なります。

6.7.1 エンベデッドオーディオの表示

LV 58SER01A(SDI INPUT)とLV 58SER40A(DIGITAL AUDIO)を実装している場合は、SDI 信号に 多重されているエンベデッドオーディオの表示ができます。 エンベデッドオーディオを表示するには、下記の手順で行います。

a) 表示エリアの選択

MULTIキーで、マルチ画面表示か1画面表示かを選択します。マルチ画面表示を選択した場合、マルチ画面のどのエリアにオーディオを表示するか、1~4キーを押します。

b) 入力信号の選択

 UNIT 1~4 キーで LV 58SER01A(SDI INPUT)を実装しているユニット番号を選択します。
 (※)LV 58SER01A(SDI INPUT)は、SDI 入力端子を2つ実装しているので、A キーまたは B キーで A/B 入力を選択します。

※ このとき、LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)が実装されているユニット番号は選択しません。

c) AUDIOの選択

AUDIO キーを押してオーディオを表示します。 SDI 信号を観測していて、表示エリアおよび入力信号の選択に変更がない場合は、AUDIO キーを押すだけで、エンベデッドオーディオ表示になります。 オーディオの表示は、複数エリアに同時表示することはできません。

6.7.2 外部オーディオの表示

LV 58SER40A(DIGITAL AUDIO)は、エンベデッドオーディオ表示以外に背面 BNC 端子に入力し た外部ディジタルオーディオ信号の表示も可能です。 外部ディジタルオーディオを表示するには、下記の手順で行います。

a) 入力系統の選択

外部ディジタルオーディオを表示するには、背面のディジタルオーディオ入出力端子の 入力/出力を切り換える必要があります。 この入力/出力の切り換えは、システムメニューから行います。

まず、SYS キーを押してシステムメニューを表示します。 次に F・1 (UNIT SETUP)を押して、LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)が実装されているユニッ ト番号の UNIT SETUP を押します。 そうすると、LV 58SER40A のシステムセットアップ タブメニューが表示されます。

F・D を回して、タブメニュー上の External BNC Select の INPUT にカーソルを合わせま す。F・D を押すとチェックが入るので、F・1 (COMPLETE)を押して確定します。

b) 表示エリアの選択

MULTI キーで、マルチ画面表示か1 画面表示かを選択します。マルチ画面表示を選択した場合、マルチ画面のどのエリアにオーディオを表示するか、1~4 キーを押します。

c) 入力信号の選択

UNIT 1~4 キーでLV 58SER40A(DIGITAL AUDIO)を実装しているユニット番号を選択しま す。外部ディジタルオーディオ表示の場合、AUDIO キーを押す必要はありません。 オーディオの表示は、複数エリアに同時表示することはできません。

6.8 ステータス表示

本器で検出している各種エラー検出や解析結果のステータス表示の表示方法について説明します。LV 58SER01A(SDI INPUT)で検出している項目と LV 58SER40A(DIGITAL AUDIO)で検出している項目で操作方法が異なります。

6.8.1 SDI 信号のステータス表示

LV 58SER01A (SDI INPUT) に入力した SDI 信号のステータスを表示するには、下記の手順で行います。

a) 表示エリアの選択

MULTIキーで、マルチ画面表示か1画面表示かを選択します。マルチ画面表示を選択した場合、マルチ画面のどのエリアにステータスを表示するか、1~4キーを押します。

b) 入力信号の選択

UNIT 1~4 キーで LV 58SER01A(SDI INPUT)を実装しているユニット番号を選択します。 LV 58SER01A(SDI INPUT)は、SDI 入力端子を2つ実装しているので、A キーまたは B キ ーで A/B 入力を選択します。

c) STATUS の選択

STATUS キーを押してステータスを表示します。

6.8.2 オーディオのステータス表示

LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO) で検出したステータスを表示するには、下記の手順で行います。

a) 表示エリアの選択

MULTI キーで、マルチ画面表示か1 画面表示かを選択します。マルチ画面表示を選択した場合、マルチ画面のどのエリアにステータスを表示するか、1~4 キーを押します。

b) 入力信号の選択

エンベデッドオーディオから分離したディジタルオーディオのステータスを表示する 場合、UNIT 1~4 キーで LV 58SER01A (SDI INPUT)を実装しているユニット番号を選択し ます。

LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)の背面 BNC 端子から入力している外部ディジタルオーディ オのステータス表示をする場合、LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)を実装しているユニット 番号を選択します。

LV 58SER01A(SDI INPUT)の場合は、SDI 入力端子を2つ実装しているので、A キーまた は B キーで A/B 入力を選択します。

c) STATUS の表示

AUDIO キーを押して、F・2(DISPLAY MODE)で STATUS を選択します。

6.9 アイパターン表示

6.9.1 LV 58SER02 のアイパターン表示

LV 58SER02(EYE PATTERN unit)を実装していて、LV 58SER01A(SDI INPUT)に入力した SDI 信 号のアイパターンを表示するには、下記の手順で行います。

a) 表示エリアの選択

MULTI キーで、マルチ画面表示か1 画面表示かを選択します。マルチ画面表示を選択した場合、マルチ画面のどのエリアにアイパターンを表示するか、1~4 キーを押します。

b) 入力信号の選択

UNIT 1~4 キーで LV 58SER01A を実装しているユニット番号を選択します。LV 58SER01A は、SDI 入力端子を 2 つ実装しているので、A キーまたは B キーで A/B 入力を選択します。

c) EYE の選択

EYE キーを押してアイパターンを表示します。

6.9.2 LV 58SER07 のアイパターン表示

LV 58SER07 (EYE PATTERN)を実装していて、LV 58SER06 (3G-SDI INPUT) に入力した SDI 信号 のアイパターンを表示するには、下記の手順で行います。

a) SDI 信号の入力

LV 58SER07の INPUT に SDI 信号を入力します。

b) ケーブルの接続

LV 58SER07 の OUTPUT と LV 58SER06 の INPUT を、LV 58SER07 に付属のケーブルで接続 します。OUTPUT A は INPUT A、OUTPUT B は INPUT B に対応させて接続してください。 また、ユニット接続は1対1とし、複数の LV 58SER06 と接続しないでください。

c) 表示エリアの選択

MULTI キーで、マルチ画面表示か1 画面表示かを選択します。マルチ画面表示を選択した場合、マルチ画面のどのエリアにアイパターンを表示するか、1~4 キーを押します。

d) 入力信号の選択

UNIT 1~4 キーで LV 58SER06 (LV 58SER07 と接続したもの)を実装しているユニット番号を選択します。LV 58SER06 は、SDI 入力端子を2つ実装しているので、A キーまたは B キーで A/B 入力を選択します。

e) EYE の選択

EYE キーを押してアイパターンを表示します。

6.10 メニューの構成

メニュー構成を示します。下線部(_)は初期値を表します。

6.10.1 キャプチャメニュー



- ※1 SYS-PLATFORM SETUP-GENERAL SETUP-Capture Mode が Video Frame のときに表示されます。
- ※2 キャプチャデータが存在するときに表示されます。
- ※3 キャプチャデータが存在しないときに表示されます。
- ※4 USB 端子に USB メモリーが接続されているときに表示されます。
- ※5 SYS-PLATFORM SETUP-GENERAL SETUP-Capture Mode が Screen のときに表示されます。
- ※6 USB 端子に USB メモリーが接続されていて、キャプチャデータが存在し、FILE SELECT のいずれかが ON のときに表示されます。
- ※7 BSG または FRM ファイルを選択したときに表示されます。

6.10.2 システムメニュー



6. 操作手順の概要



- ※1 本体にユニットが実装されているときに表示されます。
- ※2 複数のタブがあるときに表示されます。
- ※3 PLATFORM SETUP-ETHERNET-Time Server Select が OFF のときに表示されます。

6.10.3 プリセットメニュー



- ※1 選択した No. にプリセットデータがあるときに表示されます。
- ※2 USB 端子に USB メモリーが接続されているときに表示されます。

7. システム設定

システム全体に関する設定は、SYS キーを押したときに表示されるシステムメニューから行います。

システムメニューは、本体に関するシステム設定と各ユニットに関するシステム設定の2つに大 分できます。



図 7-1 SYS キー



表 7-1 システムメニューの説明

ファンクションメニュー	機能
F·1 UNIT SETUP	実装している各ユニットのシステム設定を行います。
	→「7.1 ユニットのシステム設定」参照
F·2 PLATFORM SETUP	本体のシステム設定を行います。
	→「7.2.1 本体の一般的な設定」参照
F·3 DATE&TIME	本体の日付と時間を合わせます。
	→「7.2.4 日付と時間の設定」参照
F.5 SYSTEM INFORMATION	本体と各ユニットの実装状況、バージョン情報を表示します。
	→「7.2.5 実装ユニットの表示」参照
F·6 LCD OFF	LCD のバックライトを消灯し消費電力を下げます。
	→「7.2.6 LCD バックライトの消灯」参照
F·7 INITIALIZE	メニュー操作の初期化を行います。
	→「7.2.7 初期化」参照

7.1 ユニットのシステム設定

SYS キーを押したときに表示されるシステムメニューから F・1 (UNIT SETUP)を選択すると、各 ユニットのセットアップメニューが表示されます。

ユニットごとに行うシステム設定は、ここから行います。詳しい設定方法は、各ユニットの取 扱説明書をご覧ください。

7.2 本体のシステム設定

SYS キーを押したときに表示されるシステムメニューから F・2 (PLATFORM SETUP)を選択すると、 本体のセットアップを行うタブメニューを表示します。

このタブメニューでは、本体の一般的な設定、イーサーネットの設定、リモート端子の設定を 行います。それぞれの設定は、F・2(PREV)とF・3(NEXT)で切り換えます。

7.2.1 本体の一般的な設定

SYS キーを押したときに表示されるシステムメニューから F・2 (PLATFORM SETUP)を選択する と、本体の一般的な設定を行うタブメニュー(LV5800 GENERAL SETUP)を表示します。

GENERAL SETUP ETHERNET REHOTE

L V 58	LV5800 GENERAL SETUP					
So Mu Wi Ca	urce Mode lti Display ndow Marker pture Mode	□ Single Input ⊠ Multi Input □ Multi Input and □ 2Multi ⊠ 4Multi □ 0FF ⊠ Blue □ White ⊠ Screen □ Video Frame (SDI Only)				
Info	ormation Dis	play				
	Format	🗷 ON 🗆 OFF	=			
	Date	□0FF ⊠y	/m/d □ m/d/y	/□d/m/y		
	Time	🗷 ON 🗆 OFF	-	-		
	Color System	⊓ 🗷 ON 🗆 OFF	=			
	Input	⊠ ON □ OFF	=			
LCD	Setup					
	Backlight	🗷 High 🗆 🛛	Low			
	Auto Off	■ 0FF □ 5	min 🗆 30min	🗆 60min		
COMPLETE	PREV	NEXT				CANCEL

図 7-3 一般設定タブメニュー

a) 入力モードとラインセレクトの設定 (Source Mode)

LV5800 GENERAL SETUP の Source Mode は、第1エリア〜第4エリアの入力信号を同一 にする(1入力モード)か、別々に設定できるようにする(マルチ入力モード)かを設定し ます。1入力モードに設定すると、1つのエリアで入力ユニットまたは入力チャンネル を変更したときに、全てのエリアで入力信号が切り換わります。

また、ラインセレクト機能を連動させることができます。選択したラインが連動する表示モードは、WFM、VECT、PIC、STATUS (DATA DUMP)です。

Single Input	1入力モードにします。表示モード間、および表示エ
	リア間で、ラインセレクト機能が連動します。
	現在の表示モードに対応していないユニットを選択
	したとき、表示モードは自動的に WFM になります。
Multi Input	マルチ入力モードにします。ラインセレクト機能は連
	動しません。
Multi Input and Line Number	マルチ入力モードにします。同一エリアの表示モード
	間で、ラインセレクト機能が連動します。

b) マルチ表示数の選択 (Multi Display)

LV5800 GENERAL SETUP の Multi Display は、マルチ画面表示のときの表示形態を選択 します。本器のマルチ画面表示の表示形態には、2 画面マルチ表示と4 画面マルチ表示 があります。

2Multiマルチ画面表示のときに2画面マルチ表示にします。4Multiマルチ画面表示のときに4画面マルチ表示にします。

1 画面表示とマルチ画面表示の切り換えには、MULTI キーを使用します。 → 「6.2.2 表示形態の選択」参照

c) 選択エリアの枠表示 (Window Marker)

LV5800 GENERAL SETUP の Window Marker は、1~4 キーで選択したエリアの枠表示について設定します。

 OFF
 選択エリアの枠を表示しません。

 Blue
 選択エリアの枠を青色で表示します。

 White
 選択エリアの枠を白色で表示します。

d) スクリーンキャプチャとフレームキャプチャの選択 (Capture Mode)

LV5800 GENERAL SETUP の Capture Mode は、キャプチャ機能の動作モードを選択します。

Screen	CAP キーを押したときスクリーンキャプチャモードになります。
Video Frame	CAP キーを押したときフレームキャプチャモードになります。

本器のキャプチャ機能は、スクリーンキャプチャとフレームキャプチャがあります。ス クリーンキャプチャは、本体に表示している内容を静止画としてキャプチャする機能で す。静止画としてキャプチャするので、キャプチャ後の加工はできません。一方フレー ムキャプチャは、SDI 信号1フレーム分のデータをキャプチャする機能です。フレーム データとしてキャプチャするので、キャプチャ後の加工がある程度可能です。フレーム キャプチャ機能は、LV 58SER01A(SDI INPUT)または LV 58SER06(3G-SDI INPUT)を実装 しているときに有効です。

なお、スクリーンキャプチャ機能とフレームキャプチャ機能を同時に実行することはで きません。

スクリーンキャプチャの詳しい操作方法は「8.1 スクリーンキャプチャ」を参照して ください。フレームキャプチャの詳しい操作方法は、各ユニットの取扱説明書をご覧く ださい。

フレームキャプチャ機能を選択しているときに WFM キー、VECT キー、PIC キー、AUD キー、EYE キーを操作すると、画面全体が一度点滅します。

e) フォーマットの表示 (Format)

LV5800 GENERAL SETUP の Format は、画面上部にビデオ信号のフォーマットを表示する か表示しないかを選択します。

画面上にビデオ信号に関する表示をしていないときは、Format を ON にしてもフォーマットの表示はされません。

f) 日付の表示 (Date)

LV5800 GENERAL SETUPの Date は、画面上部の日付表示について設定します。

OFF	日付を表示しません。
y/m/d	年/月/日の順で日付を表示します。
m/d/y	月/日/年の順で日付を表示します。
d/m/y	日/月/年の順で日付を表示します。

g) 時間の表示 (Time)

LV5800 GENERAL SETUP の Time は、画面上部の時間表示について設定します。時間表示 を OFF にして、1 画面表示にすると、LV 58SER01A (SDI INPUT) などで可能なタイムコー ドも表示されなくなります。

ON	時間を表示します。
OFF	時間を表示しません。

h) カラーシステムの表示 (Color System)

LV5800 GENERAL SETUP の Color System は、画面上部に表示されるカラーシステム (YCbCr や RGB など)の表示について設定します。

ON カラーシステムを表示します。

OFF カラーシステムを表示しません。

カラーシステムの表示は、入力したビデオ信号の種類を示します。例えば、YCbCr や RGB などが表示されます。また、カラーシステムの表示は、入力信号がビデオ信号のときに表示されます。LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)で外部オーディオを入力しているときは表示されません。

i) 入力ユニット番号と入力チャンネルの表示 (Input)

LV5800 GENERAL SETUP の Input は、画面上部に表示される入力ユニット番号と入力チャンネルの表示について設定します。入力チャンネルは、LV 58SER01A(SDI INPUT)のように A/B の 2 つ以上の入力を持つユニットのときに表示されます。

 ON
 入力ユニット番号と入力チャンネルを表示します。

 OFF
 入力ユニット番号と入力チャンネルを表示しません。

j) バックライトの輝度調整 (Backlight)

LV5800 GENERAL SETUPのBacklightは、LCDバックライトの輝度(明るさ)を選択します。

HighLCD バックライトを明るくします。LowLCD バックライトをやや暗くします。暗い場所で液晶表示がまぶしく感じるときに使用します。

k) バックライトの自動消灯 (Auto Off)

LV5800 GENERAL SETUP の Auto Off は、LCD バックライトの自動消灯について設定します。

OFF	LCD バックライトの自動消灯をしません。
5min	最後のキー操作から5分後に LCD バックライトを消灯します。
30min	最後のキー操作から 30 分後に LCD バックライトを消灯します。
60min	最後のキー操作から 60 分後に LCD バックライトを消灯します。

バックライトが消灯している状態で何かキー操作をすると、バックライトが点灯します。

※ バックライトの消灯/点灯は、1日数回程度にしてください。あまり頻繁に繰り返すと、バック ライトの寿命が短くなります。

7.2.2 イーサーネットの設定



図 7-4 イーサーネット端子

イーサーネットの接続は、ETHERNET に 100BASE-TX 対応の STP ケーブルを接続します。ハブ を介してネットワークに接続する場合はストレートケーブルを使用し、コンピュータと1対 1で接続する場合はクロスケーブルを使用してください。

イーサーネット接続に関する設定を行うには、SYS キーを押したときに表示されるシステム メニューから F・2 (PLATFORM SETUP)を選択して、タブメニューを表示します。次に F・3 (NEXT) を押して LV5800 ETHERNET SETUP タブメニューからイーサーネット接続の設定を行います。

GENERAL SETUP	ETHERNET REN	DTE				
LV5800 ETHERNET SETUP						
Ne	Network Select 🗆 DHCP 🗷 IP 🛛 Time Server Select 🗷 ON 🗆 OFF					
TCP / IP IP Address IP Address IP I						
COMPLETE	PREV	NEXT				CANCEL
						I

図 7-5 ETHERNET 設定タブメニュー

a) DHCPとIPの選択 (Network Select)

LV5800 ETHERNET SETUP の Network Select は、イーサーネット接続の方法について選択します。

DHCP サーバが起動している環境で、DHCP を選択すると、IP アドレス、サブネットマス ク、デフォルトゲートウェイの設定が自動で行われます。DHCP が使用できるかどうか は、ネットワーク管理者にご確認ください。

DHCP DHCP を利用して自動設定します。

IP IP アドレス等を手動で設定します。

設定後は、一度電源を落として、再投入してください。

b) IP アドレスの設定 (IP Address)

LV5800 ETHERNET SETUP の IP Address は、本体に割り当てる IP アドレスを手動で設定 します。このとき「DHCP と IP の選択」で IP を選択した場合に IP アドレスを入力でき ます。

IP アドレスは、ネットワーク上でユニークな番号でなければなりません。IP アドレス の取得に関しては、ネットワーク管理者にご確認ください。 IP アドレスの設定後は、一度電源を落として、再投入してください。

c) サブネットマスクの設定 (Subnet mask)

LV5800 ETHERNET SETUP の Subnet Mask は、本体に割り当てるサブネットマスクを手動 設定します。このとき「DHCP と IP の選択」で IP を選択した場合にサブネットマスク を入力できます。

サブネットマスクの値に関しては、ネットワーク管理者にご確認ください。 サブネットマスクの設定後は一度電源を落として、再投入してください。

d) デフォルトゲートウェイの設定 (Default Gateway)

LV5800 ETHERNET SETUP の Default Gateway は、本体に割り当てるデフォルトゲートウェイを手動設定します。このとき「DHCP と IP の選択」で IP を選択した場合にデフォルトゲートウェイを入力できます。

デフォルトゲートウェイの値に関しては、ネットワーク管理者にご確認ください。 デフォルトゲートウェイの設定後は一度電源を落として、再投入してください。

e) タイムサーバーの設定 (Time Server Select)

LV5800 ETHERNET SETUP の Time Server Select では、日時の表示方法について選択します。

- ON タイムサーバーに同期して日時を表示します。使用しているプロトコ ルは、SNTPです。
- OFF システムメニューの F・3 (DATE&TIME) で設定した日時を表示します。

ON を選択すると、システムメニューの F・3 (DATE&TIME) は表示されません。 また、ON にしても正常な通信が行われない場合、日付の代わりに「NTP ERROR」と表示 され、時刻は Time Server Select を ON にする直前のデータが表示されます。このとき、 キャプチャファイル名などの日時は、Time Server Select を ON にする直前のデータが 使用されます。

f) IP アドレスの設定 (IP Address)

LV5800 ETHERNET SETUP の IP Address では、タイムサーバーに同期して日時を表示す るときの IP アドレスを設定します。 Time Server Select が OFF のとき、IP Address は設定できません。

g) 時刻補正値の設定 (TimeZone Adjust)

LV5800 ETHERNET SETUP の TimeZone Adjust では、タイムサーバーに同期して日時を表示するときの時刻補正値を設定します。NTP(SNTP)で送受信する日時は協定世界時(UTC; Coordinated Universal Time)となるため、国や地域に合わせて時刻を補正する必要があります。

Time Server Select が OFF のとき、TimeZone Adjust は設定できません。

補正値	国、地域
-12:00	エニウェトク、クエジェリン
-11:00	ミッドウェー島、サモア
-10:00	ハワイ
-9:00	アラスカ
-8:00	太平洋標準時(米国、カナダ)、ティファナ
-7:00	山地標準時(米国、カナダ)、アリゾナ
-6:00	中部標準時(米国、カナダ)、中央アメリカ、サスカチュワン、メキシコシティ
-5:00	東部標準時(米国、カナダ)、インディアナ東部、ボゴタ、リマ、キト
-4:00	大西洋標準時(カナダ)、ラパス、サンティアゴ
-3:00	グリーンランド、ブエノスアイレス、ジョージタウン、ブラジリア
-2:00	中央大西洋
-1:00	アゾレス諸島、ガーボベルデ諸島
+0:00	グリニッジ標準時(ダブリン、エジンバラ、リスボン、ロンドン)、
	カサブランカ、モンロビア
+1:00	アムステルダム、ベルリン、ベルン、ローマ、ストックホルム、
	サラエボ、スコピエ、ソフィア、ビリニュス、ワルシャワ、ザグレブ、
	ブリュッセル、マドリード、コペンハーゲン、パリ、ベオグラード、
	プラチスラバ、ブダペスト、リュブリャナ、プラハ、西中央アフリカ
+2:00	アテネ、イスタンブール、ミンスク、エルサレム、カイロ、
	ハラーレ、プレトリア、ブカレスト、ヘルシンキ、リガ、タリン
+3:00	クウェート、リヤド、ナイロビ、バクダット、モスクワ、ボルゴグラード、
	サンクトペテルブルグ
+4:00	アブダビ、マスカット、バグ、トビリシ、エレバン
+5:00	イスラマバード、カラチ、タシケント、エカテリンバーグ
+6:00	アスタナ、ダッカ、アルマティ、ノボシビルスク
+7:00	クラスノヤルスク、バンコク、ハノイ、ジャカルタ

表 7-2 時刻補正値一覧表

補正値	国、地域
+8:00	イルクーツク、ウランバートル、クアラルンプール、シンガポール、パース、
	台北、北京、重慶、香港、ウルムチ
+9:00	ソウル、ヤクーツク、大阪、札幌、東京
+10:00	ウラジオストク、キャンベラ、メルボルン、シドニー、グアム、
	ポートモレスビー、ブリスベン、ホバート
+11:00	マガダン、ソロモン諸島、ニューカレドニア
+12:00	オークランド、ウェリントン、フィジー、カムチャッカ、マーシャル諸島

7.2.3 リモート端子の設定

リモート端子は、D-sub 25 ピンのリモートコントロール端子です。 あらかじめプリセットされた本体設定を最大で 60 点まで呼び出すことができます。また、 アラームの出力や入力チャンネル、入力ユニットの切り換えもできます。

出力ピンには、電圧を加えないでください。

入力ピンは、全て+3.3V にプルアップされています。外部からコントロールする時は、+5V を越える電圧やマイナスの電圧を加えないでください。



図 7-6 背面リモート端子

表 7-3 リモート端子のピンアサイン

			機能		
ピン番号	名称	入出力	Remote Select		
			Recall Recall and Loudness Unit Select		
1	ALARM1	出力	エラーを検出したとき、アクティブになります。		
2	GND	GND	接地端子です。プリセットをリコールするときに接続します。		
3	/CH_A	入力	A チャンネルを選択します。HIGH で保持します。		
4	/CH_B	入力	B チャンネルを選択します。HIGH で保持します。		
5	N. C.		未接続		
6	N. C.		未接続		
7	N. C.		未接続		
8	N. C.		未接続		
9	N. C.		未接続		
10	LCH+ (※1)	入力	アナログオーディオ信号 (Lch+) を入力します。		
11	LCH- (※1)	入力	アナログオーディオ信号(Lch-)を入力します。		
12	RCH+ (※1)	入力	アナログオーディオ信号(Rch+)を入力します。		
13	RCH- (※1)	入力	アナログオーディオ信号(Rch-)を入力します。		
14	GND	GND	接地端子です。プリセットをリコールするときに接続します。		
15	ALARM2	出力	エラーを検出したとき、アクティブになります。		
16	ALARM3	出力	エラーを検出したとき、アクティブになります。		
17	/P1	入力	プリセットリコール1		
18	/P2	入力	プリセットリコール 2		
19	/P3	入力	プリセットリコール 3		
20	/P4	入力	プリセットリコール 4		
21	/P5	入力	プリセットリコール5 UNIT 1 選択		
22	/P6	入力	プリセットリコール 6 UNIT 2 選択		
23	/P7 (※1)	入力	プリセットリコール7 ラウドネス測定のクリア UNIT 3 選択		
24	/P8 (※1)	入力			
25	ALARM4	出力	エラーを検出したとき、アクティブになります。		

※1 アナログオーディオ信号やラウドネスの測定には、LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)が必要です。

●コントロール

入力端子の制御はLowアクティブです。設定は350ms以上の安定した状態を保ってください。 また、一度設定した後は、1秒以上の間隔を空けてから次の設定をしてください。



図 7-7 コントロールタイミング1

なお、設定から動作完了まで3秒程度かかることがあります。動作完了前に次の設定を続け て行うと最後の設定のみが有効となり、途中の設定は無効になりますので注意してください。 (以下の場合、コントロール2が無効となります)



図 7-8 コントロールタイミング2

●プリセットの呼び出し

/P1~/P8のコントロール表を以下に示します。

表 7-4 プリセットの呼び出し (BIT)

呼び出し	24p	23p	22p	21p	20p	19p	18p	17p
No.	/P8	/P7	/P6	/P5	/P4	/P3	/P2	/P1
1	Н	Н	Н	Н	Н	Н	Н	L
2	Η	Н	Н	Н	Н	Η	L	Η
3	Η	Н	Н	Н	Н	L	Н	Η
4	Н	Н	Н	Н	L	Н	Н	Н
5	Η	Н	Н	L	Н	Η	Н	Η
6	Η	Н	L	Н	Н	Η	Н	Η
7	Η	L	Н	Н	Н	Η	Н	Η
8	L	Н	Н	Н	Н	Н	Н	Н

表 7-5 プリセットの呼び出し (BINARY)

呼び出し	22p	21p	20p	19p	18p	17p
No.	/P6	/P5	/P4	/P3	/P2	/P1
1	Н	Н	Н	Н	Н	L
2	Н	Н	Н	Н	L	Н
3	Н	Н	Н	Н	L	L
4	Н	Н	Н	L	Н	Н
5	Н	Н	Н	L	Н	L
6	Н	Н	Н	L	L	Н
7	Н	Н	Н	L	L	L
8	Н	Н	L	Н	Η	Н
9	Н	Н	L	Н	Н	L
10	Н	Н	L	Н	L	Н
11	Н	Н	L	Н	L	L
12	Н	Н	L	L	Н	Н
13	Н	Н	L	L	Н	L
14	Н	Н	L	L	L	Н
15	Н	Н	L	L	L	L
16	Н	L	Н	Н	Н	Н
17	Н	L	Н	Н	Н	L
18	Н	L	Н	Н	L	Н
19	Н	L	Н	Н	L	L
20	Н	L	Н	L	Н	Н
21	Н	L	Н	L	Н	L
22	Н	L	Н	L	L	Н
23	Н	L	Н	L	L	L
24	Н	L	L	Н	Η	Н
25	Н	L	L	Н	Η	L
26	Н	L	L	Н	L	Н
27	Н	L	L	Н	L	L
28	Н	L	L	L	Η	Н
29	Н	L	L	L	Н	L
30	Н	L	L	L	L	Н
31	Н	L	L	L	L	L
32	L	Н	Н	Н	Н	Н
33	L	Н	Н	Н	Н	L
34	L	Н	Н	Н	L	Н
35	L	Н	Н	Н	L	L
36	L	Н	Н	L	Н	Н
37	L	Н	Н	L	Н	L
38	L	Н	Н	L	L	Н
39	L	Н	Н	L	L	L
40	L	Н	L	Н	Н	Н
41	L	Н	L	Н	Н	L
42	L	Н	L	Н	L	Н

7. システム設定

呼び出し	22p	21p	20p	19p	18p	17p
No.	/P6	/P5	/P4	/P3	/P2	/P1
43	L	Н	L	Η	L	L
44	L	Н	L	L	Η	Н
45	L	Н	L	L	Н	L
46	L	Н	L	L	L	Н
47	L	Н	L	L	L	L
48	L	L	Н	Η	Η	Н
49	L	L	Н	Η	Η	L
50	L	L	Н	Η	L	Н
51	L	L	Н	Η	L	L
52	L	L	Н	L	Η	Н
53	L	L	Н	L	Η	L
54	L	L	Н	L	L	Н
55	L	L	Н	L	L	L
56	L	L	L	Η	Н	Н
57	L	L	L	Н	Н	L
58	L	L	L	Н	L	Н
59	L	L	L	Н	L	L
60	L	L	L	L	Н	Н

●本体の設定

リモート端子の設定を行うには、SYS キーを押したときに表示されるシステムメニューから F・2 (PLATFORM SETUP)を選択して、タブメニューを表示します。次に F・3 (NEXT)を 2 回押し て LV5800 REMOTE SETUP タブメニューを表示して、リモート端子の設定を行います。

GENERAL SETUP ETHERNET REHO	TE				
LV5800 REMOTE SI	ETUP				
Remote Mode	BIT 🗆	BINARY			
Remote Select	⊠ Recall	🗆 Unit Sele	ect 🗆 Recal	l and Loudn	ess
Alarm Polarity	🖻 Positiv	/e 🗆 Negativ	e		
Alarm1 Select	፼UNIT1 □ A □ B ®	□UNIT2 □UN] ¤A/B	[T3 🗆 UNIT4	□ ALL UNIT	
Alarm2 Select	□UNIT1 ® □A □B ®	∎UNIT2 □ UN] ∎ A/B	(T3 🗆 UNIT4	□ ALL UNIT	
Alarm3 Select	UNIT1	□UNIT2 ₪UN] ¤A/B	(T3 🗆 UNIT4	□ ALL UNIT	
Alarm4 Select	□UNIT1 □ □A□B®	□UNIT2 □UN] ¤A/B	[T3 ⊠ UNIT4	□ ALL UNIT	
Error Beep	🗆 ON 🗷 OF	F			
COMPLETE PREV	NEXT				CANCEL

図 7-9 リモート設定タブメニュー

a) プリセット呼び出し方法の選択 (Remote Mode)

LV5800 REMOTE SETUP の Remote Mode は、プリセットの呼び出し方法を選択します。プリセットの呼び出し方法には、/P1~/P8 をそれぞれプリセット番号 1~8 に割り当てる方法と、/P1~/P6 を P6:MSB, P1:LSB としてバイナリーコードでプリセット番号 1~60 に割り当てる方法があります。

BIT /P1~/P8 に相当するプリセット番号 1~8 を呼び出します。(Remote Select が Recall のとき) /P1~/P4 に相当するプリセット番号 1~4 を呼び出します。(Remote Select が Unit Select のとき) /P1~/P6 に相当するプリセット番号 1~6 を呼び出します。(Remote Select が Recall and Loudness のとき)

BINARY /P1~/P6 を使用してバイナリーコードでプリセット番号 1~60 を呼 び出します。(Remote Select が Recall または Recall and Loudness のとき) /P1~/P4 を使用してバイナリーコードでプリセット番号 1~15 を呼 び出します。(Remote Select が Unit Select のとき)

BIT / BINARY とも P1~P8 は、LOW アクティブです。設定するときは、各端子を GND に 接続されるようにしてください。

※ 一度設定した後は、1秒以上間隔をあけてから次に設定してください。

b) リモート機能の選択 (Remote Select)

LV5800 REMOTE SETUPのRemote Selectは、/P1~/P8に割り当てる機能を選択します。

Recall /P1~/P8 をプリセットの呼び出しに割り当てます。最大で 60 通りの プリセットを呼び出すことができます。

Unit Select /P1~/P4 をプリセットの呼び出しに、/P5~/P8 を入力ユニットの選択に割り当てます。最大で 15 通りのプリセットの呼び出しができます。

Recall and Loudness

/P1~/P6をプリセットの呼び出し、/P7をラウドネス測定のクリア、 /P8をラウドネス測定の開始/停止に割り当てます。最大で60通りの プリセットを呼び出すことができます。なお、ラウドネスの測定には LV 58SER40A(DIGITAL AUDIO)が必要です。

c) アラーム信号極性 (Alarm Polarity)

LV5800 REMOTE SETUP の Alarm Polarity は、エラー検出した際に出力するアラーム信号の極性を選択します。アラーム信号は、LV 58SER01A(SDI INPUT)などで各種エラーを検出したときに ALARM ピンからパルス出力するものです。

Positive エラー検出時、HIGHを出力します。

Negative エラー検出時、LOW を出力します。

アラーム出力端子のピン番号に関しては、「表 7-2 リモート端子のピンアサイン」を 参照してください。

d) アラーム出力選択 (Alarm Select)

LV5800 REMOTE SETUP の Alarm Select 1~4 は、4 つあるアラーム出力ピンにそれぞれ、 どの入力信号のエラーをアラーム出力するか選択します。 入力信号はユニット番号で指定し、LV 58SER01A(SDI INPUT)のように A/B の 2 入力を持 つユニットの場合、A, B, A/B の選択も有効になります。

UNIT1	ユニット No.1 のエラーをアラーム出力します。
UNIT2	ユニット No.2 のエラーをアラーム出力します。
UNIT3	ユニット No.3 のエラーをアラーム出力します。
UNIT4	ユニット No.4 のエラーをアラーム出力します。
ALL UNIT	ユニット No. 1~4 のエラーをアラーム出力します。
А	選択したユニットのAチャンネルのエラーをアラーム出力します。
В	選択したユニットのBチャンネルのエラーをアラーム出力します。
A/B	選択したユニットのAチャンネルとBチャンネルのエラーをアラーム
	出力します。

※ 2入力を持たないユニットを選択した場合、A, B, A/Bの設定は無効になります。

e) BEEP 音出力選択(Error Beep)

LV5800 REMOTE SETUP の Error Beep では、エラー検出時に BEEP 音を鳴らすかどうか設 定します。

 ON
 エラー検出時に BEEP 音を鳴らします。

 OFF
 エラー検出時に BEEP 音を鳴らしません。

7.2.4 日付と時間の設定

本器はカレンダー機能と時計機能を持っていますので、日時の表示や時刻付でイベントログができます。

日付と時間の設定は、SYS キーを押したときに表示されるシステムメニューから F・3(DATE&TIME)を選択して行います。



表 7-6 日付と時間設定メニューの説明

ファンクションメニュー	機能
F-1 YEAR	西暦を設定します。
F·2 MONTH	月を設定します。
F·3 DAY	日を設定します。
F·4 HOUR	時間を設定します。
F·5 MINUTE	分を設定します。
F-6 SECOND	秒を設定します。
F-7 CLOCK SET	日時を決定します。

a) 西暦の設定

 $[SYS \rightarrow F \cdot 3 (DATE\&TIME) \rightarrow F \cdot 1 (YEAR)]$

西暦は、1970 年から 2038 年まで設定できます。メニューにて F・1 (YEAR)を選択後、F・ D で西暦を合わせます。

b) 月の設定

[SYS \rightarrow F·3 (DATE&TIME) \rightarrow F·2 (MONTH)]

月は、1 月から 12 月まで設定できます。メニューにて F・2 (MONTH)を選択後、F・D で月 を合わせます。

c) 日の設定

[SYS \rightarrow F·3 (DATE&TIME) \rightarrow F·3 (DAY)]

日は、1 日から 31 日まで設定できます。メニューにて F・3 (DAY)を選択後、F・D で日を 合わせます。

d) 時間の設定

[SYS \rightarrow F·3 (DATE&TIME) \rightarrow F·4 (HOUR)]

時間は、1時から24時まで設定できます。メニューにてF・4(HOUR)を選択後、F・Dで時間を合わせます。

e) 分の設定

[SYS \rightarrow F·3 (DATE&TIME) \rightarrow F·5 (MINUTE)]

分は、0分から59分まで設定できます。メニューにてF・5(MINUTE)を選択後、F・Dで分を合わせます。

f) 秒の設定

 $[SYS \rightarrow F \cdot 3 (DATE\&TIME) \rightarrow F \cdot 6 (SECOND)]$

秒は、0 秒から 59 秒まで設定できます。メニューにて F・6 (SECOND)を選択後、F・D で秒 を合わせます。

g) 日時の設定

[SYS \rightarrow F·3 (DATE&TIME) \rightarrow F·7 (CLOCK SET)]

日付と時刻の設定を終えたら、F・7(CLOCK SET)で本器のカレンダー機能に書込みをしま す。書込みと同時に日付と時刻の設定メニューから抜けて、システムメニューに戻りま す。

書き込みをキャンセルするときは、SYS キーを押してください。

7.2.5 実装ユニットの表示

本器は、実装するユニットを自由に構成できるので、実装されているユニットと各ユニットの設定を理解しておくことが、本器を正しく使用する上で重要となります。

本器は、背面パネルを確認することで実装されているユニットを確認できますが、ラック等に組み込まれて確認が困難な場合もあるため、画面表示から確認もできます。

実装ユニットの画面からの確認方法は、SYS キーを押したときに表示されるシステムメニューから F・5(SYSTEM INFORMATION)を選択します。

以下のような表示となり、本体のファームウエアバージョンや実装ユニットについての情報 が表示されます。

u

図 7-11 実装ユニットの表示

7.2.6 LCD バックライトの消灯

SYS キーを押したときに表示されるシステムメニューから F・6 (LCD OFF)を押すと、LCD (液晶 画面)のバックライトが消灯します。

バックライトが消灯している状態で何かキー操作をすると、バックライトが点灯します。

※ バックライトの消灯/点灯は、1日数回程度にしてください。あまり頻繁に繰り返すと、バックライト の寿命が短くなります。

7.2.7 初期化

本器は、電源を切っても最後に操作した内容がバックアップされ、次に電源を入れたときには、前の状態からスタートします。これらの設定を初期化するには、SYS キーを押したときに表示されるシステムメニューから F・7 (INITIALIZE)を選択します。



図 7-12 初期化メニュー

表 7-7 初期化メニューの説明

ファンクションメニュー	機能
F-1 INIT YES	設定を初期化します。
F·3 INIT CANCEL	設定の初期化を取り消します。

INIT YES を選択すると初期化されます。

INIT NOを選択すると初期化されずにシステムメニューに戻ります。

この初期化では、日付と時間、プリセットの内容、イーサーネットの設定、リモート端子の 設定(ただし Error Beep を除く)、LV 58SER40A(DIGITAL AUDIO)の BNC コネクタ入出力の設 定は初期化されません。

8. キャプチャ機能

本器は、表示画面を静止画データとして一度内部メモリーに記録するキャプチャ機能を備えています。このキャプチャ機能は、静止画データを表示できるだけでなく、入力信号と重ねて表示したり、USBメモリーに保存して再度本体に読み込ませたり、コンピュータからビットマップデータとして確認することができます。

また、LV 58SER01A(SDI INPUT)または LV 58SER06(3G-SDI INPUT)を実装している場合、入力チャンネルごとに SDI 信号の1フレーム分のビデオデータを記録することができます。このフレームデータを使用して、キャプチャ後にビデオ信号波形表示やベクトル表示、ピクチャー表示、データダンプ表示と表示モードを変えて表示することができます。

本器では、液晶表示画面を静止画データとしてキャプチャすることをスクリーンキャプチャとよび、SDI 信号1フレーム分のビデオデータをキャプチャすることをフレームキャプチャとよんでいます。

スクリーンキャプチャとフレームキャプチャの切り換えは、システムメニューから行います。 (「7.2.1 本体の一般的な設定」参照)その他、キャプチャ機能に関する設定は、CAP キーを押 したときに表示されるキャプチャメニューから行います。



図 8-1 CAP キー



衣 0~1 イヤノナヤノーユーの読	表 8	8–1	キャプ	゚゚チャメ	ニュー	の説り
-------------------	-----	-----	-----	-------	-----	-----

ファンクションメニュー	機能
F·3 REFRESH	キャプチャデータの新規取り込みを行います。
	→「8.1.1 スクリーンキャプチャ手順」参照
F·4 DISPLAY	キャプチャデータの表示方法を選択します。
	→「8.1.1 スクリーンキャプチャ手順」参照
F·5 FILE SELECT	USB メモリーに保存するファイルを選択します。
	→「8.1.2 スクリーンキャプチャファイルの選択」参照
F·6 USB MEM STORE	キャプチャデータを USB メモリーに保存します。
	→「8.1.3 スクリーンキャプチャファイルの保存」参照
F.7 USB MEM RECALL	USB メモリーのキャプチャデータを読み出したり、削除したりします。
	→「8.1.3 スクリーンキャプチャファイルの保存」参照

8.1 スクリーンキャプチャ

スクリーンキャプチャ機能は、本体に表示している内容を静止画データとしてキャプチャする 機能です。取り込んだキャプチャデータは、USBメモリーに保存したり、入力信号と重ねて表 示したりすることができます。

Aキー、Bキー、EXTキー、OVLAYキー、CH 1~3キーを除くキー操作や、ビデオ信号波形表示 からベクトル表示に変えるなど、表示モードの変更を行うと、取り込んだキャプチャデータが クリアされます。 タブメニューやプリセット設定画面、ファイル操作の画面は、スクリーンキャプチャできませ ん。

8.1.1 スクリーンキャプチャ手順

表示画面のスクリーンキャプチャは、下記の手順で行います。

1. スクリーンキャプチャ機能の選択

 $[SYS \rightarrow F \cdot 2 (PLATFORM SETUP)]$

SYS キーを押したときに表示されるシステムメニューから F・2 (PLATFORM SETUP)を選択 し、GENERAL SETUP の Capture Mode で Screen を選択します。 →「7.2.1 本体の一般的な設定」参照

2 キャプチャの準備

本体の画面をキャプチャする画面設定にして、CAP キーを押します。

3 キャプチャの開始

 $[CAP \rightarrow F \cdot 3 (REFRESH)]$

CAP キーを押した時点ですでに内部メモリに、スクリーンキャプチャされていますが、 改めてキャプチャするときは、F・3(REFRESH)を押します。

4 表示の選択

[CAP \rightarrow F•4(DISPLAY) \rightarrow REAL / HOLD / BOTH]

スクリーンキャプチャした静止画データを確認するには、F・4(DISPLAY)で HOLD を選択 します。BOTH を選択すると入力信号とスクリーンキャプチャした静止画データを重ね て表示します。(※1)

- REAL 入力信号の表示を更新し続けます
- HOLD スクリーンキャプチャした静止画データを表示します。(※2)
- BOTH 入力信号とスクリーンキャプチャした静止画データの輝度を半分に して、重ねて表示します。(※2)
- ※1 キャプチャした静止画データのうち、ビデオ信号波形、ベクトル波形、オーディオ波形、アイパ ターン波形は、色をシアンで表示します。(ただし、波形色が GREEN, MULTI のときを除く)
- ※2 HOLD や BOTH で静止画データを確認する際、スケールやリードアウト、5 バーなどは表示されません。ビットマップファイルとして USB メモリーに保存する際は、これらの描画データも静止画 データとして保存します。

8.1.2 スクリーンキャプチャファイルの選択

スクリーンキャプチャした静止画データは、表示モードを変更したり電源を切ったりした場合に消去されますが、USBメモリーに保存することで電源を切った後でも再描画させることができます。また、ビットマップデータをコンピュータ等で確認することもできます。

本体で再描画可能なデータとコンピュータで確認可能なビットマップデータでは、ファイル 形式が違うため、相互で使用できません。必要に応じてファイルを選択して保存してください。

ファイルサイズは、ビットマップファイル、BSG ファイルともに約 2.4MB です。



表 8-2 ファイル選択メニューの説明

ファンクションメニュー	機能
F·1 BMP FILE	USB メモリーにビットマップファイルを保存するかを選択します。
F-2 BSG FILE	USB メモリーに BSG ファイルを保存するかを選択します。

a) ビットマップファイルの選択

 $[CAP \rightarrow F \cdot 5 (FILE SELECT) \rightarrow F \cdot 1 (BMP FILE) \rightarrow ON / OFF]$

スクリーンキャプチャしたデータをビットマップファイルとして USB メモリーに保存 することで、コンピュータ等でキャプチャデータを確認することができます。(※) 本体で再描画するには、ビットマップファイルは使用できません。BSG ファイルを使用 してください。

ビットマップファイルを USB メモリーに保存するには、キャプチャメニューから F・ 5(FILE SELECT)を押して F・1 (BMP FILE)で ON を選択します。 OFF を選択すると、USB メモリーにビットマップファイルは保存されません。

※ ビットマップファイルには、スケールやリードアウト、オーディオレベル形などの描画データも キャプチャした瞬間の状態で保存されます。

b) BSG ファイルの選択

 $[CAP \rightarrow F \cdot 5 (FILE SELECT) \rightarrow F \cdot 2 (BSG FILE) \rightarrow ON / OFF]$

スクリーンキャプチャしたデータを一度 USB メモリーに保存し、再度本体でキャプチャ データを描画するには、BSG ファイル(※)で保存する必要があります。 BSG ファイルを USB メモリーに保存するには、キャプチャメニューから F・5(FILE SELECT)を押して F・2(BSG FILE)で ON を選択します。

OFF にすると、USB メモリーに BSG ファイルは保存されません。

※ ビットマップファイルでは、本体に再描画することはできません。BSG ファイルとして保存した データを本体で再描画した場合、スケールやリードアウト、オーディオレベル形などの描画デー タは再現しません。これらの内容は、再描画しているときの設定や値の表示となります。

8.1.3 スクリーンキャプチャファイルの保存

 $[CAP \rightarrow F \cdot 6 (USB MEM STORE)]$

スクリーンキャプチャしたデータを USB メモリーに保存するには、USB 端子に USB メモリー を接続して($\overset{()}{\times}$)、キャプチャメニューから F·6(USB MEM STORE)を選択します。 F·6(USB MEM STORE)は、USB メモリーが接続されていないときや、F·5(FILE SELECT)がすべ て OFF のときは表示されません。

キャプチャファイルは、USBメモリーの「BMP」フォルダ内に以下の名前で保存されます。 yyyymmddhhmmss(西暦、月、日、時間、分、秒、の順 - システム設定で設定)

キャプチャファイルを USB メモリーに保存している間は、画面右上の USB マークが緑から赤 に変わり、画面上にメッセージ「Saving file」が表示されます。保存中は USB メモリーを 抜いたり、電源を切ったりしないでください。保存にかかる時間は約5秒です。

※ USBメモリーを接続してから本体が USBメモリーを自動認識するまでに5秒程度かかります。

8.1.4 スクリーンキャプチャファイルの読み出し

 $[CAP \rightarrow F \cdot 7 (USB MEM RECALL) \rightarrow F \cdot 1 (RECALL)]$

USBメモリーに保存してある BSG ファイルは、本体で読み出して再描画することができます。 BSG ファイルが保存されている USB メモリーを接続して(※1)、キャプチャメニューから F・ D を回して読み出す BSG ファイルにカーソルを合わせます。(※2) 次に F・1 (RECALL)を押すと USB メモリーからキャプチャファイルを読み出します。

キャプチャデータの描画をするには、キャプチャメニューから F・4 (DISPLAY) で HOLD または BOTH を選択します。

→「8.1.1 スクリーンキャプチャ手順」参照

※1 USBメモリーを接続してから本体が USBメモリーを自動認識するまでに5秒程度かかります。

※2 ビットマップファイルや、他機種で保存した BSG ファイルは、本体で再描画することはできません。

8. キャプチャ機能

Externa	N USB DEVICE BITMAP FILE LIST	
	No.FileName Date Time Size(Byt	e)
	1 20081022143056.bmp 2008/10/22 14:30:56 2359350	
	2 20001022143030.DSg 2000/10/22 14:30:30 23/9390	
	MAX SIZE: 251906 kB	
	PREE 312E. 97900 KB	
RECALL	FILE	up
	DELETE	menu
[[F·1]]) [F·2]] [F·3]] [F·4]] [F·5]] [F·6) F·7)

図 8-4 キャプチャファイルー覧表示とキャプチャファイル操作メニュー

表 8-3 キャプチャファイル操作メニューの説明

ファンクションメニュー	機能
F-1 RECALL	USB メモリーに保存したキャプチャファイルを読み出します。読み
	出し可能なファイルにカーソルがあるときに表示されます。
F·3 FILE DELETE	キャプチャファイルを削除します。
	→「8.1.5 スクリーンキャプチャファイルの削除」参照

8.1.5 スクリーンキャプチャファイルの削除

 $[CAP \rightarrow F \cdot 7 (USB MEM RECALL) \rightarrow F \cdot 3 (FILE DELETE)]$

USB メモリーに保存してあるキャプチャファイルを削除するには、キャプチャファイルが保存されている USB メモリーを接続して、キャプチャメニューから F・D を回して削除するファイルにカーソルを合わせます。次に F・3(FILE DELETE)を押すと F・1(DELETE YES)か F・3(DELETE NO)が表示されますので、F・1(DELETE YES)を押して削除します。F・3(DELETE NO)を押すと削除を取り消します。

8.2 フレームキャプチャ

フレームキャプチャ機能は、LV 58SER01A(SDI INPUT)または LV 58SER06(3G-SDI INPUT)に入 力している SDI 信号の1フレーム分のデータをキャプチャする機能です。USB メモリーに保存 したり、入力信号と重ねて表示したりすることもできますが、さらにビデオ信号波形表示から ベクトル表示、ピクチャー表示といったように表示モードを変えてもメモリーデータは消去さ れずそれぞれの表示を静止画データとして表示できます。

ただし、フレームキャプチャ機能では、キャプチャデータからオーディオ表示、ステータス表示、アイパターン表示をすることはできません。

詳しくは、各ユニットの取扱説明書をご覧ください。
9. プリセット機能

本器に設定された内容(一部を除く)を 60 点までメモリー(登録)することができます。 登録した状態をリコール(呼び出し)する方法は、前面パネルによる操作のほか、背面リモート端 子からリコールすることもできます。

メモリーしたプリセットデータは USB メモリーに一括コピーできるため、複数の本体を同一の設定で使用できます。

日付と時間、イーサーネット接続の設定、リモート端子の設定、LV 58SER01A (SDI INPUT)および LV 58SER06 (3G-SDI INPUT)のフレームキャプチャモードの設定、LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO) の BNC コネクタ入出力の設定は、メモリーできません。

プリセットした状態で、ユニットの実装構成を変更した場合、変更したユニットに関する設定は、 初期設定になります。



図 9-1 MEM キーと RCLL キー

9.1 プリセットの登録とファイル操作

プリセットの登録は、本体を登録したい状態に設定します。次に MEM キーを押すとプリセット 登録メニューが表示されるので、下記の手順で行います。

Internal	Memory FIL	E LIST					
	No. FileComment		Date	Time	Size(By	te)	
Г	1 DEFAULT		2006/ 7/ 1	16:57:56	20040		
	2 2 MULTI WFM	/VECT	2006/ 7/ 1	17:03:36	20040		
	3 4 MULTI	,	2006/7/1	17:01:21	20040		
	4 Audio		2006/7/1	17:04:23	20040		
	5		//				
	6		//	;;			
	7		//	:			
	8		//	:			
	9		//	:			
	10		//	:			
	11		//	:			
	12		//	:			
	13		//				
	14		//				
	15		//				
	16		//				
	Eye Patte	ern					
COMMENT	GTORE	DELETE			CORY		
	STORE	DELETE					
					21101	INT-2036	
F·1	F·2	F·3	F·4		•5	F·6	F·7
X	9-2 プリ	セット登	録画面と	こプリセ	ェット	登録メニ	ユ —

表 9-1 プリセット登録メニューの説明

ファンクションメニュー	機能
F·1 COMMENT INPUT	プリセットデータにコメントをつけます。
	→「9.1.1 コメントの入力」参照
F·2 STORE	プリセットデータを記録します。
	→「9.1.2 プリセットの登録」参照
F·3 DELETE	プリセットデータを消去します。
	→「9.1.3 プリセットの削除」参照
F·5 ALL COPY USB->INT	全てのプリセットデータを USB メモリーにコピーします。
	→「9.1.4 プリセットデータの一括コピー」参照
F·6 ALL COPY INT->USB	USB メモリーに保存してあるプリセットデータを本体にコピーします。
	→「9.1.4 プリセットデータの一括コピー」参照

9.1.1 コメントの入力

 $[MEM \rightarrow F \cdot 1 (COMMENT INPUT)]$

プリセットデータには、プリセット番号ごとに 20 字までコメントを入力することができま す。コメントの入力方法は、メモリーメニューから F・1 (COMMENT INPUT)を押してコメント 入力画面にします。

図 9-3 のようなファイル名入力画面が表示されるので、F・D とファンクションキーでファイル名を入力します。F・D は、ツマミを回すと文字選択カーソルが移動して、ツマミを押すと文字選択カーソルで示される文字をファイル名に適用します。コメントの入力後は、F・7(up menu)を押して、プリセット登録メニューに戻ります。

文	字選択カー	ソル				
<u>∓</u>						
SPC	i "	# \$ %	& '	() *	+ ,	-
	/ 0	1 2 3	4 5	6 7 8	9 :	;
<	= >	? @ A	BC	DEF	GH	I
J	KL	MO	PQ	RST	UV	W
X	YZ	[]	<u>^</u>	` a b	c d	е
f	g h	i j k	l m	n o p	qr	S
t	u v	w x y	z {	} ~		
	[F. & I	D NOB] = CHAR S	SELECT , [F.D PUS	SH] = CHAR SET		
ファイ	ル名	TOP MEMORI CO	MMENT	-		
カーソ	ル -					
CLEAR	DELETE	INSERT	<=	=>	CHAR	up
					561	menu
F·1	F·2	F·3	F·4	F-5	F·6	F·7
図 9-3	プリセッ	トのコメン	ント入力画	画面とコメ	 ント入力	メニュー

表 9-2 コメント入力メニューの説明

ファンクションメニュー	機能
F-1 CLEAR ALL	表示しているファイル名を全て削除します。
F·2 DELETE	ファイル名を1文字削除します。
F·3 INSERT	ファイル名に1文字スペースを入れます。
F·4 <=	ファイル名カーソルを左に1文字移動します。
F·5 =>	ファイル名カーソルを右に1文字移動します。
F-6 CHAR SET	文字選択カーソルで示される文字をファイル名に適用します。

ファイル名は、すでに保存してあるファイル名からコピーすることもできます。ファイル名 をコピーするには、図 9-2 のプリセット登録画面でコピーしたいファイルにカーソルを合わ せて、F・Dを押してください。

9.1.2 プリセットの登録

 $[\text{MEM} \rightarrow F \cdot 2 \text{ (STORE)}]$

F・Dを回して、プリセットを登録する番号を選択します。 F・2(STORE)を押してプリセットを登録します。 コメントとともに、登録した日付、時間、ファイルサイズが表示されます。

9.1.3 プリセットの削除

 $[\text{MEM} \rightarrow \text{F} \cdot 3 \text{ (DELETE)} \rightarrow \text{F} \cdot 1 \text{ (DELETE YES)}]$

ー度プリセットしたデータを削除するには、プリセット登録メニューから F・D を回して、 削除するデータを選択します。次に F・3 (DELETE)を押します。 削除の確認が表示されたら F・1 (DELETE YES)を押します。キャンセルする場合は、ここで F・ 3 (DELETE NO)を押します。

9.1.4 プリセットデータの一括コピー

複数の本体でプリセットデータを同一にしたい場合は、USBメモリー(※)を使用することで、 全てのプリセットデータを一括コピーできます。 このとき、コピーする本体同士のユニットの実装構成は、同一である必要があります。 ユニット構成が違う本体同士のプリセットデーター括コピーは、同一ユニット No. に同一ユ ニットが実装されているものだけが、プリセットの対象となります。

- ※ USBメモリーは、FAT16 でフォーマットしてあるものを使用してください。他のファイルシステムで フォーマットされたものは、認識できません。
- a) USB メモリーからコピー

 $[MEM \rightarrow F \cdot 5 (ALL COPY USB \rightarrow INT) \rightarrow F \cdot 1 (COPY YES)]$

USB メモリーに記録されているプリセットデータを本体にコピーするには、プリセット 登録メニューから F・5(ALL COPY USB->INT)を押します。 確認画面で F・1(COPY YES)を押してコピーします。キャンセルする場合は、ここで F・ 3(COPY NO)を押します。

b) USB メモリーヘコピー

 $[MEM \rightarrow F \cdot 6 (ALL COPY INT \rightarrow VSB) \rightarrow F \cdot 1 (COPY YES)]$

本体に登録されているプリセットデータを USB メモリーにコピーするには、プリセット 登録メニューから F・6 (ALL COPY INT->USB)を押します。 確認画面で F・1 (COPY YES)を押してコピーします。キャンセルする場合は、ここで F・ 3 (COPY NO)を押します。

9.2 プリセットの呼び出し



図 9-4 プリセット呼び出しメニュー

RCLL キーを押すとプリセット呼び出しメニューが表示され、登録しているプリセットデータの呼び出しが行えます。登録番号とコメントがファンクションメニューに表示されるので、それぞれのファンクションキーを押します。

登録したプリセットデータが7つ以上あるときは、F・7(more)を押すと次の7つのデータが表示されます。また、F・Dツマミを回すことによってプリセット番号の移動も可能です。

10. 電源コードについて

電源コードが引っぱられて AC インレットから抜けることを防止するために、抜け防止用のカバ ーインレットストッパーが付属されています。下記に使用方法を説明します。

10.1 電源コードを接続するとき

1. 電源コードのコネクタを AC インレットに挿入します。



2. カバーインレットストッパーをコネクタにかぶせます。



3. カバーインレットストッパーをベースに、カチッと音がするところまで押し込みます。



4. カバーインレットストッパーがベースにロックされていることを確認します。

- 10.2 電源コードを取り外すとき
 - 1. カバーインレットストッパーのレバーの部分を2本の指で押して、カバーインレットスト ッパーのロックをはずします。



2. カバーインレットストッパーをベースから、引き抜きます。



3. 電源コードのコネクタを AC インレットから引き抜きます。



11. 校正と修理について

製品は、工場出荷時、厳正な品質管理の下で仕様に基づいた性能の確認を実施していますが、部 品の経年変化等により、性能に多少の変化が生じることがあります。製品の性能を安定した状態 でお使いいただくため、定期的な校正をおすすめいたします。また、動作に不具合等があれば、 修理が必要となります。製品校正および修理についてのご相談は、お買いあげになりました取扱 代理店、本社または各営業所へご連絡ください。

12. ファームウェアの変更履歴

本書は以下のファームウエアバージョンに基づいて作成されています。

- Ver 1.1 (LV 5800A)
- Ver 11.0 (LV 5800)

バージョンを確認するには、SYS \rightarrow F·5 SYSTEM INFORMATION の順にキーを押してください。

- Ver 4.8 (LV 5800)
 - ・SNTP に対応。タイムサーバーに同期して日時を表示。
- Ver 4.7 (LV 5800)
 - ・キャプチャデータの USB メモリー保存を 2 アクションでできるように改善。ファイル名は、 自動生成した日付と時間に変更。
- Ver 3.7 (LV 5800)
 - ・エラー発生時に BEEP 音機能を追加。
- Ver 3.4 (LV 5800)
 - ・1入力モード追加。
 - ・背面リモートの機能で入力ユニット選択機能を追加。
- Ver 3.1 (LV 5800)
 - ・ウインドウ枠の色を変更できる機能追加。
- Ver 1.6 (LV 5800)
 - ・フレームキャプチャ機能を追加。
 - ・画面表示で WAVEFORM 時に現在の COLOR SYSTEM を表示。
 - ・画面表示で時間や入力情報等、表示の ON/OFF を追加。
 - ・画面表示でシングル画面の時にフレームを消す。
 - ・SYSTEM に新たに PLATFORM TAB メニューを追加。
 - ・MULTI メニューを SYSTEM メニューに移動。

索引

1			
1+-	 	 	 9
2			
2キー	 	 	 9
3			
3 キー	 	 	 9
4			
4キー	 	 	 9

Α

Alarm Polarity55
Alarm Select
ALL COPY INT->USB
ALL COPY USB->INT
AUDIO11
Auto 0ff
A +8

в

Backlight	46
BMP FILE	62
BSG FILE	63
B キー	. 9

С

CAP12
Capture Mode
CH110
СН210
СНЗ10
Color System
COMMENT INPUT66

D

Date 4	5
DATE&TIME 5	6
Default Gateway 4	8
DELETE	57
DISPLAY	51

Ε

Error Beep	56
ETHERNET 13,	47
EXT	12
EXT REF	14
ЕҮЕ	11

F

F•D
FAN ALARM 17
FILE DELETE
FILE SELECT
Format

G

Н

H POS	10
-------	----

Ι

INITIALIZE	59
Input	46
IP Address	49

L

Μ

МЕМ11	
MULTI	
Multi Display44	

Ν

Network	Select	 	 48

0

OVLAY	 	••••	 ••••	 	10

Ρ

PHONES	12
PIC	11
PLATFORM SETUP	43

R

RCLL11
RECALL
REFRESH61
REMOTE14, 54
Remote Mode
Remote Select

S

Source	Mode	 	 	. 44

STATUS 11
STORE
Subnet mask
SYS 12
SYSTEM INFORMATION58

Т

Time	45
Time Server Select	48
TimeZone Adjust	49

U

UNIT 1
UNIT 2
UNIT 3
UNIT 4
UNIT SETUP
USB 12
USB MEM RECALL
USB MEM STORE

V

V	POS	3		•	• •								•	•		•	•	•		•		•	•	•	•	•	•	•	•	10
Vł	ECT		•••	•	• •					•	•	•	•	•		•	•	•	 		•	•	•	•	•	•	•		•	11

W

WFM		 	 •••	 	 	10
Window	Marker	 	 •••	 	 	44

所含有毒有害物质信息

部件号码: LV 5800A



此标志适用于在中国销售的电子信息产品,依据2006年2月28日公布的 《电子信息产品污染控制管理办法》以及SJ/T11364-2006《电子信息产品污染 控制标识要求》,表示该产品在使用完结后可再利用。数字表示的是环境保护使 用期限,只要遵守与本产品有关的安全和使用上的注意事项,从制造日算起在数 字所表示的年限内,产品不会产生环境污染和对人体、财产的影响。 产品适当使用后报废的方法请遵从电子信息产品的回收、再利用相关法令。 详细请咨询各级政府主管部门。

部件名称	7	有毒有害物质或法	元素 Hazard	ous Substance	s in each Par	٠t
Parts	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
	(Pb)	(Hg)	(Cd)	(Cr(VI))	(PBB)	(PBDE)
实装基板	×	0	0	0	0	0
主体部	×	0	0	0	0	0
液晶显示模组	×	0	0	0	0	0
开关电源	×	0	0	0	0	0
风扇	×	0	0	0	0	0
外筐	0	0	0	0	0	0
线材料一套	×	0	0	0	0	0
附件	0	0	0	0	0	0
包装材	0	0	0	0	0	0
电池	0	0	0	0	0	0

产品中有毒有害物质或元素的名称及含量

备注)

O: 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T11363-2006 规定的限量要求以下。

×: 表示该有毒有害物质或元素至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T11363-2006 标准规定的限量要求。

Ver.1

所含有毒有害物质信息

部件号码: LV 5800



此标志适用于在中国销售的电子信息产品,依据2006年2月28日公布的 《电子信息产品污染控制管理办法》以及SJ/T11364-2006《电子信息产品污染 控制标识要求》,表示该产品在使用完结后可再利用。数字表示的是环境保护使 用期限,只要遵守与本产品有关的安全和使用上的注意事项,从制造日算起在数 字所表示的年限内,产品不会产生环境污染和对人体、财产的影响。 产品适当使用后报废的方法请遵从电子信息产品的回收、再利用相关法令。 详细请咨询各级政府主管部门。

部件名称	有毒有害物质或元素 Hazardous Substances in each Part											
Parts	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚						
	(Pb)	(Hg)	(Cd)	(Cr(VI))	(PBB)	(PBDE)						
实装基板	×	0	0	0	0	0						
主体部	×	0	0	0	0	0						
液晶显示模组	0	×	0	0	0	0						
开关电源	×	0	0	0	0	0						
风扇	×	0	0	0	0	0						
外筐	0	0	0	0	0	0						
线材料一套	0	0	0	0	0	0						
附件	0	0	0	0	0	0						
包装材	0	0	0	0	0	0						
电池	0	0	0	0	0	0						

产品中有毒有害物质或元素的名称及含量

备注)

O: 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T11363-2006 规定的限量要求以下。

×: 表示该有毒有害物质或元素至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T11363-2006 标准规定的限量要求。

Ver.6

リーダー電子株式会社 http://www.leader.co.jp 本社・国内営業部 〒223-8505 横浜市港北区綱島東 2-6-33 (045) 541-2122 (代表)

制作年月日 2015 年(平成 27 年) 5 月 29 日 Ver. 15 (FW Ver. 1.1)